

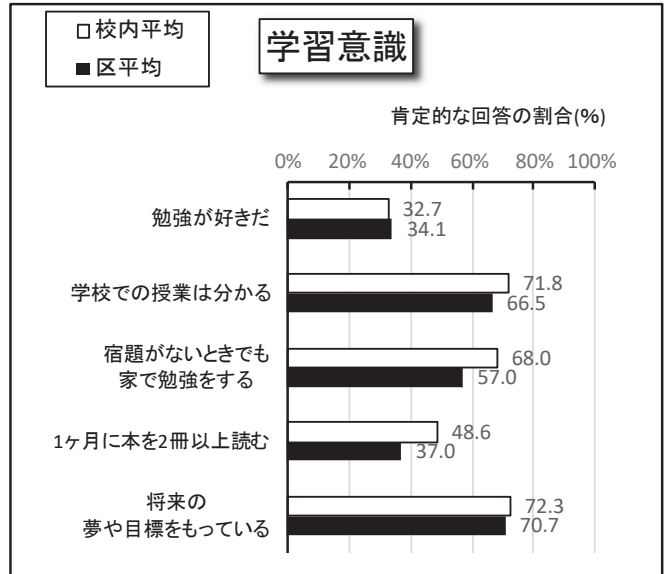
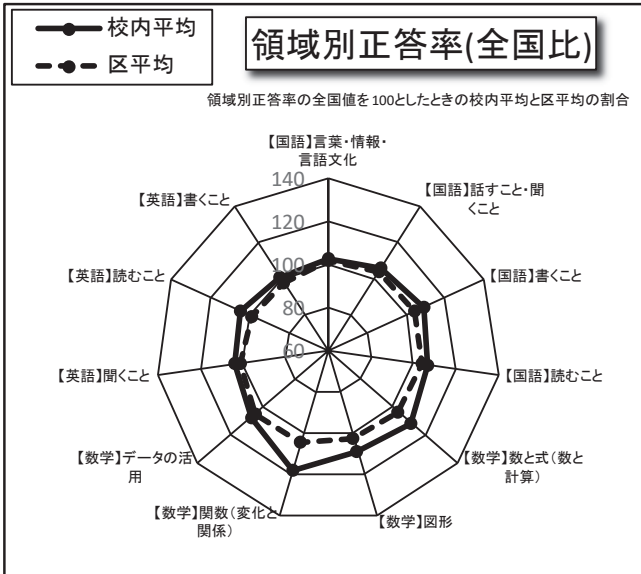
第2部

各校の調査結果概要と 学力向上への取り組み

2 中学校

第一 ……………	92	栗島 ……………	110
第四 ……………	93	江南 ……………	111
第五 ……………	94	江北桜 ……………	112
第六 ……………	95	鹿浜菜の花 ……	113
第七 ……………	96	新田 ……………	114
第九 ……………	97	千寿青葉 ……	115
第十 ……………	98	千寿桜堤 ……	116
第十一 ………	99	竹の塚 ……………	117
第十二 ………	100	西新井 ……………	118
第十三 ………	101	花畑 ……………	119
第十四 ………	102	花畑北 ……………	120
青井 ……………	103	花保 ……………	121
伊興 ……………	104	東綾瀬 ……………	122
入谷 ……………	105	東島根 ……………	123
入谷南 ………	106	浏江 ……………	124
扇 ……………	107	谷中 ……………	125
加賀 ……………	108	六月 ……………	126
蒲原 ……………	109		

第一中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	74.1	70.9	67.0	80.2	85.7	86.8	80.0	69.1	61.8	63.0	60.2	55.6
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	68.6	68.2	64.9	76.5	80.0	80.0	67.6	63.0	45.9	60.0	60.0	68.4
平均正答率(R5)	76.8	58.9	65.1	77.7	76.6	78.2	76.9	53.4	63.5	76.0	48.3	59.9
平均正答率(R4)	72.4	59.5	66.5	75.8	69.8	90.4	70.0	58.5	51.4	70.8	47.7	65.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

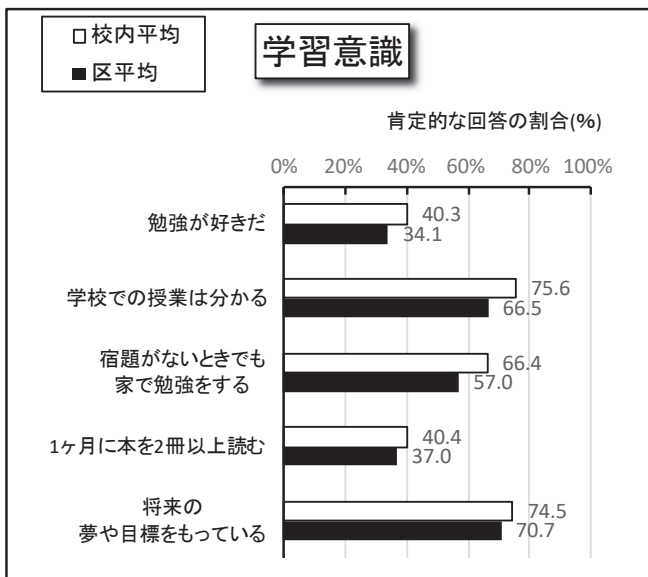
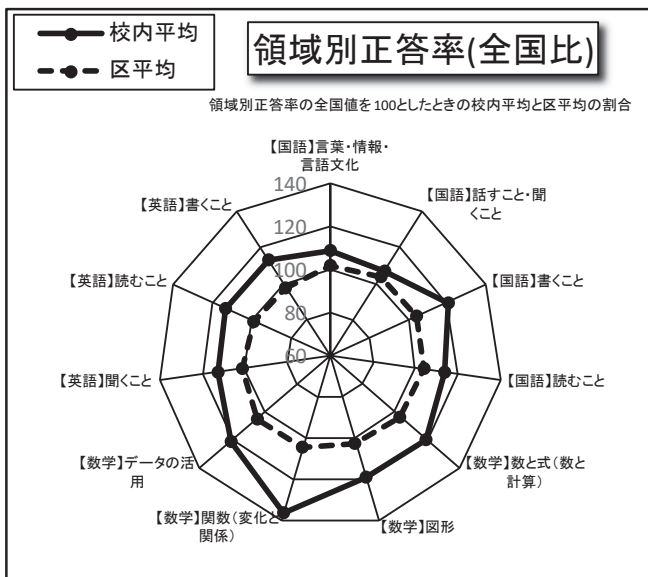
学校全体でみると、3教科ともに通過率が上がっている。意識調査において、授業や学習に臨む姿勢に関わる質問項目への肯定的な回答が昨年度より増えており、それが結果に反映したものとする。

- 国語:全学年ともに平均正答率、通過率が昨年度より上昇した。しかし特に2・3年生において、言葉・情報・言語文化の平均正答率が他の領域に比べてやや低いことが課題である。
- 数学:特に1・2年生において、通過率が5ポイント以上、上昇した。3年生についても平均正答率で区の平均を上回っている。しかし、学年が上がるに従って、学力の二極化傾向が見られるため、底上げを図る必要がある。
- 英語:1・2年生は区平均正答率を上回っている。3年生は区平均を若干下回っているものの2年生の時に比べると、通過率が10ポイント近く上昇している。知識・技能や書くことにまだ課題があるため、基本事項の徹底を図る必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習・週末課題:A Iドリルを活用して学習習慣を身につけ、基礎・基本の定着を図る。また、生徒が自らの学習における課題を見いだして、計画的に学習に取り組む力を育てる。
- キャリア教育:将来の夢や希望を持つことにより、主体的に学習に取り組む態度を育てるため、夢デザインシートの活用やキャリア教育の充実を図る。
- 国語科の主な取り組み:授業における話し合いや発表などを通して、自分の考えを文章にする練習を積み重ね、文章を記述することに対する自信をつけさせる。
- 数学科の主な取り組み:反復練習により基礎的な計算力の向上を図る。また、授業において問題解決学習に取り組み、学び合いなどを取り入れ、難しい問題にも粘り強く取り組む姿勢を育てる。
- 英語科の主な取り組み:短い英文を読む練習を繰り返し、読むことに慣れさせる。正しい文法を用いて、自己表現ができるように継続的に練習を重ね、書くことへの自信をつけさせる。
- 年間10回の校内研修を通して、授業力の向上に取り組む。

第四中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	82.0	83.5	82.6	83.4	88.6	91.2	91.4	87.1	82.2	72.3	75.1	74.2
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	82.1	81.2	74.5	85.7	88.8	82.2	87.1	82.6	65.6	73.8	72.9	76.6
平均正答率(R5)	80.8	66.0	73.1	80.1	77.2	79.6	82.7	63.9	73.0	79.8	55.5	69.2
平均正答率(R4)	78.8	67.0	72.2	79.3	74.6	91.6	78.8	69.1	60.9	78.3	57.7	72.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

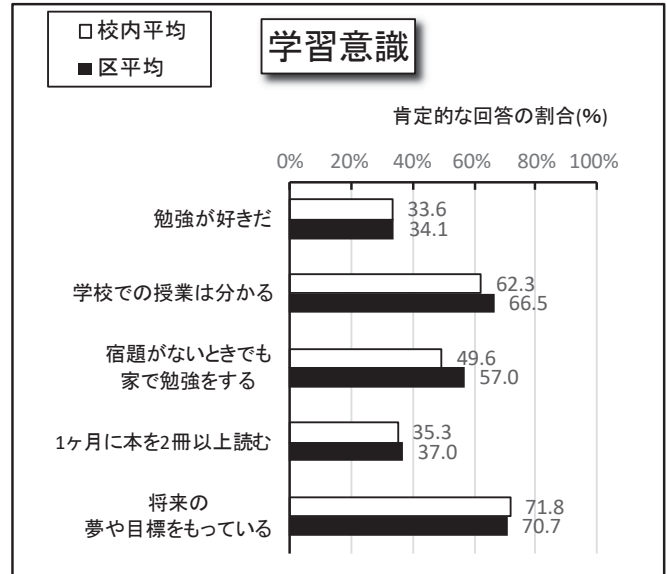
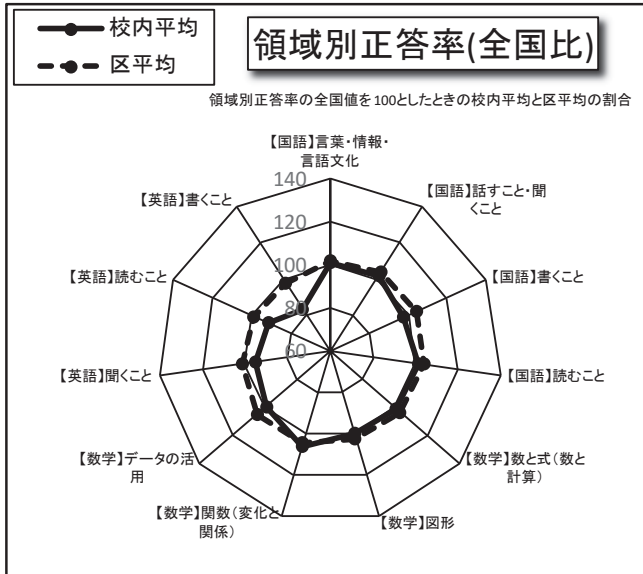
今年度の3教科全体の平均通過率は、昨年度に比べ、約3.4ポイント上昇し、約82.7%に、平均正答率も、約0.6ポイント上昇し、約73.3%となった。特に、2年生については、国語の平均通過率が、1年次に比べ、約5.7ポイント上昇し、3年生についても、2年次に比べ、英語が約8.6ポイント上昇した。領域別では、国語の「書くこと」が3年生で8.5ポイント、2年生で9.5ポイント上回り、英語の「書くこと」も、3年生で9.3ポイント、2年生で13.1ポイント上回った。基本事項をおさえた指導や統合的な言語活動の積み重ねが、結果につながったと考える。

意識調査では、「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ」や「グループ活動やペア活動では、自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合ったりすることができている」という質問項目が、区の平均に比べ肯定的な回答割合が高くなっている。自分の思いや考えなどを伝え合う際に、互いの発言を認め合い、尊重する雰囲気や各クラスに醸成されていることが要因の一つであると考えられる。一方、「宿題がないときでも家で勉強をする」や「1ヶ月に本を2冊以上読む」に対する肯定的な回答の割合が低下したことは課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

○アクティブ・ラーニングの重視:思考力・判断力・表現力等の向上を図るため、ペアワークやグループワークなど、学習形態の工夫を図る。○英数ウィーク:月に1週、毎朝10分間復習問題に取り組む。土曜授業の1コマで英語及び数学の教え合い学習を行い、その後、確認テストを行う。不合格者は翌週の補習後、再テストで合格するまで取り組む。○朝学習:1校時開始前に、主にA Iドリルを活用した朝学習や朝読書に取り組む。○質問補充教室:定期考査前に、放課後、質問補充教室を行う。○サマースクールの実施:夏季休業日に、本校教員を中心に、7日間の補充教室を行う。○各種検定の実施:年間を通して、英語検定、漢字検定、数学検定を実施する。○「各教科の学習法」の配布:授業の受け方や予習復習など家庭学習に取り組むための要点を解説した「各教科の学習法」を連休前に配布する。○論理的な思考力の向上:「論理的思考を進めるために必要な発言ルール」や「論理的思考を進めるための思考スキル」を掲示し、論理的思考力の向上に生かす。○小中連携教育:学習上の共通の課題解決を図るため、「生徒の知的な好奇心、興味・関心、自己肯定感を高める指導の工夫」に取り組む。

第五中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	65.4	65.4	50.2	76.7	73.3	78.3	72.5	69.6	39.1	52.3	56.8	39.8
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	64.4	67.1	51.1	69.9	74.0	67.1	65.5	67.8	37.9	56.9	58.5	50.8
平均正答率(R5)	73.4	53.3	56.5	73.7	64.5	71.8	74.7	51.7	55.4	72.1	46.3	51.0
平均正答率(R4)	70.1	60.7	59.9	70.4	66.5	86.4	70.0	62.3	47.3	69.9	51.7	57.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

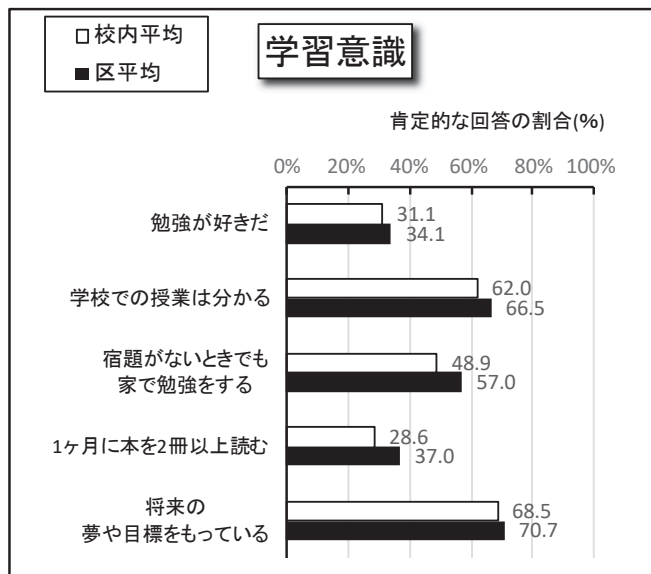
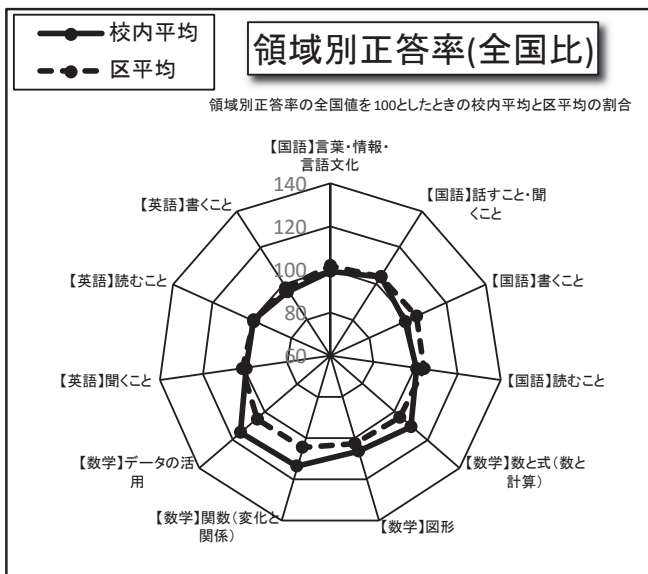
「学習定着度調査」分析結果

- 【国語】平均正答率73.4%、校内通過率65.4%である。どの学年も本文の読み取りに関する問題の正答率は比較的高いが、その内容を踏まえて「書くこと」には課題がある。「何を」「どのように」書くか、問題文から正しく読み取り、それに沿って書く力が必要である。また、漢字の書きも正答率が低いため、日々の漢字学習の徹底や読書の推進などに努めていく。
- 【数学】平均正答率53.3%、校内通過率65.4%である。2、3年生は正答率において区平均を上回ったが、1年生は区平均を下回った。領域別では「データの活用」に課題があるため、今後、習熟度別少人数授業や放課後補充教室を活用し、基礎・基本の徹底を図っていく。
- 【英語】平均正答率56.5%、校内通過率50.2%である。全学年において「書くこと」に関して苦手意識をもっている生徒が多い。そのため、少人数展開を活かして、個別指導を充実させるとともに、生徒の実態に応じた課題の提供をするようにしていく。また、語彙を増やす活動を帯活動で取り入れ、日常的に「書く力」の向上をめざす。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードを基盤とした「分かる授業」を共通実践するとともに、数学、英語では少人数指導を展開し、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- 読書習慣および読解力をつけるために、毎週始業前の時間を活用して朝読書に取り組む。
- 基礎・基本の定着を図るために、国語、数学、英語において放課後補充教室を行うとともに、漢字、数学、英語検定を年3回実施し、土曜スクールで模擬テストなどに取り組む。
- 学習ボランティアを活用して、毎週1回、金曜日の放課後に自主学習教室を実施する。
- 国語、数学、英語、社会、理科の学習コンテストをそれぞれ年1回行い、事前学習を充実させるとともに、不合格者を対象に事後学習として放課後補習を行う。
- 毎日2ページを課題とした家庭学習ノートを提出させ、自学自習の習慣を身につけさせる。
- 「教室の前方には何も貼らない・置かない」こととし、生徒が集中して学習に取り組めるよう、教室環境の整備を図る。

第六中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	65.9	73.0	61.8	76.3	81.4	79.4	60.7	57.1	44.0	59.3	79.1	59.3
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	61.1	71.4	57.7	59.1	63.4	62.0	63.0	78.0	57.8	61.6	74.0	52.1
平均正答率(R5)	73.5	60.6	61.9	75.7	72.4	74.9	71.2	47.5	53.1	73.3	58.6	61.1
平均正答率(R4)	70.7	63.4	64.6	69.8	62.2	85.7	70.7	68.6	55.9	71.9	59.2	57.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

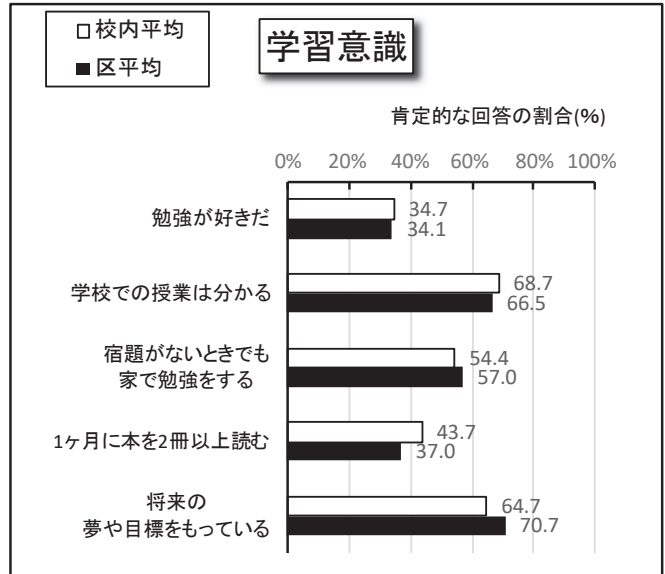
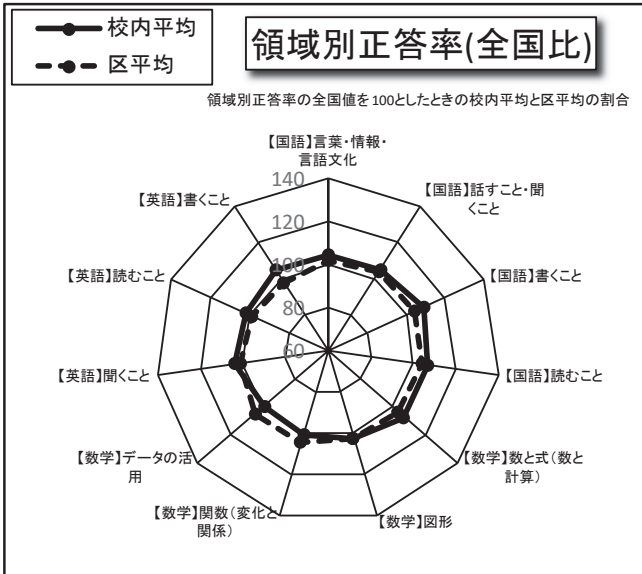
学校全体として、通過率が国語、数学、英語の全ての教科で昨年度を上回ることができた。朝学習や補充教室などで、基礎・基本の反復学習を繰り返してきた成果が発揮できている。

- ・国語では、1年生の通過率が76.3%と昨年度から比べると17.2ポイント上昇した。一方で、2・3年生は平均正答率で区の平均を下回った。特に、「書くこと」と「読むこと」で区の平均を下回っている。
- ・数学では、特に3年生で、これまでの学習の成果が出て、平均正答率が区の平均よりも12.5ポイント高い結果が出た。1年生も通過率が8割を超えている。一方で、2年生の平均正答率は、1年次と比較して14.7ポイント下回った。
- ・英語では、1年生の平均正答率は、7割を超えている。しかし、2・3年生は5～6割に留まっている。2年生は、平均正答率が区の平均よりも7.0ポイント下回っていた。
- ・学習意識では、全ての項目で区の平均を下回っているが、将来の夢や目標をもつ生徒が多くいる。家庭学習や読書習慣が定着していない点が課題として挙げられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 毎日の朝学習(15分間)では週ごとに教科を変え課題に取り組ませている。特に、タブレットを活用してQubenaを使った朝学習を5教科で積極的に行っている。苦手意識の強い単元や、基礎学力の定着率の低い分野を徹底的に反復学習している。
- 校内コンテストを、漢字・計算・スペリングの3教科で設定している。コンテスト取り組み週間をつくり、朝学習、放課後補充教室を活用するとともに、主体的に学習に取り組めるよう多様な課題を準備している。基礎・基本の徹底と学習意欲を高める環境をつくっている。
- 週3回の放課後補充教室を全教員による指導体制で全生徒を対象に実施している。数学と英語を中心に、一人ひとりの定着度に応じた個別指導も取り入れている。個に応じた指導を実践することで分かることの楽しさを経験させている。
- 5教科の朝学習以外にも、年に2回、読書weekを設定している。全校体制で読書活動に取り組み、読書習慣の構築をめざしている。

第七中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	73.5	70.1	67.5	79.3	86.8	78.5	83.8	65.0	59.8	57.3	57.8	63.8
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	75.5	69.5	71.8	77.5	76.4	79.8	74.8	62.7	58.0	74.6	71.2	79.7
平均正答率(R5)	76.8	56.5	66.5	79.0	74.2	74.5	77.9	47.8	62.5	73.4	45.0	65.3
平均正答率(R4)	75.4	61.0	68.3	74.1	67.4	89.5	73.8	58.9	54.9	78.0	58.2	71.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

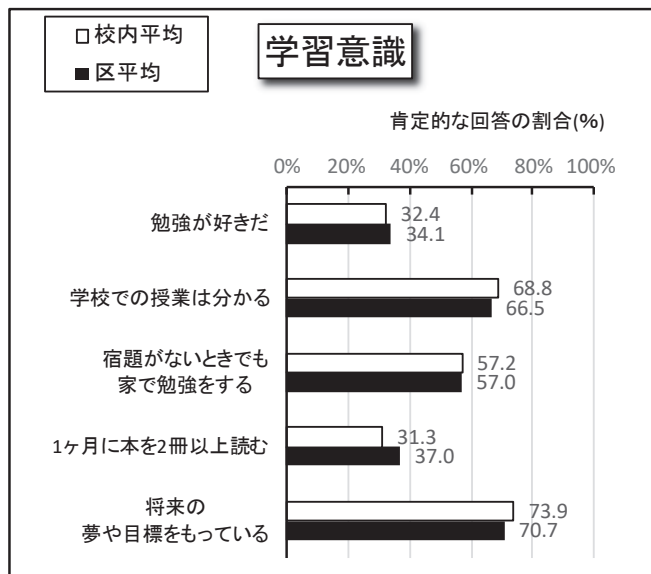
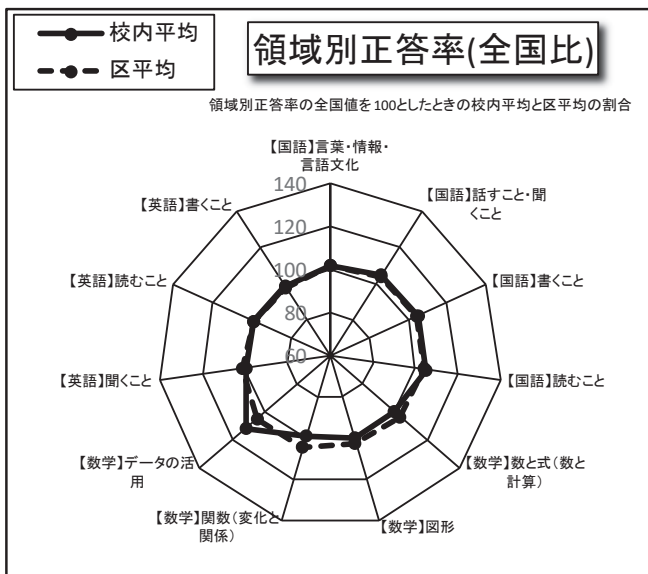
「学習定着度調査」分析結果

- 国語は学校全体で通過率が7割を超えた。区平均との比較では、1年生は4.1ポイント、2年生は1.7ポイント上回るが、3年生では0.6ポイント下回る。3年生は、漢字を書くこと、情報の扱い方の分野に課題があり、授業で取り組んでいく必要がある。
- 数学は学校全体で通過率が7割を超えた。1年生では区平均を3.9ポイント上回ったが、2年生では1.9ポイント、3年生では1.1ポイント下回る。関数分野、データの活用の分野で苦手がみられるので、関連の単元での授業時には復習を計画的に行っていく必要がある。
- 英語では、通過率について1年生では7割を超え、2・3年生では約6割だった。区平均との比較では、1年生は0.8ポイント、2年生は2.4ポイント、3年生は5.2ポイント上回った。活用の分野に課題があり、授業の中で積極的に活用する場面を増やしていく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・英語と数学では、習熟度別少人数授業を有効活用し、習熟度に合った課題の設定を行う。
- ・国語では、漢字指導と長文読解指導の充実を図る。
- ・朝読書を「読み解く力をつける時間」とし、取り組みを継続する。
- ・朝学習週間を設け、タブレットでQubenaを使った朝学習を5教科で行う。
- ・校内コンテスト(漢字・スペリング・計算)を実施し、コンテスト期間は毎日家庭学習、朝学習に取り組みながら、基礎・基本を身に付けられるようにする。
- ・放課後補習、放課後自習教室を全教員で行う。
- ・サマースクールでは、少人数指導や個別指導を徹底して行う。

第九中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	72.4	66.3	63.4	80.0	76.4	83.6	75.7	58.6	52.7	60.6	63.9	53.5
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	68.8	63.8	64.8	69.0	64.9	71.3	75.9	59.5	46.2	62.1	66.7	75.3
平均正答率(R5)	75.2	55.5	61.9	77.5	71.3	74.9	74.7	45.8	58.3	73.4	47.7	57.0
平均正答率(R4)	72.9	57.8	67.3	71.4	63.3	87.6	73.0	56.6	50.3	74.3	53.2	69.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

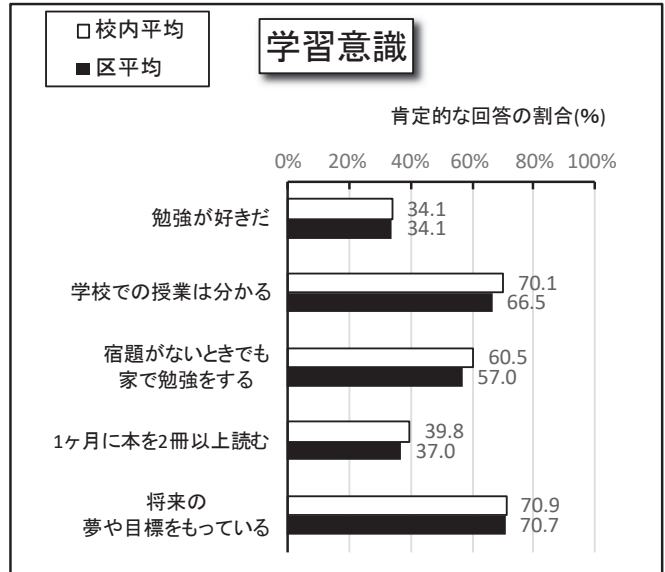
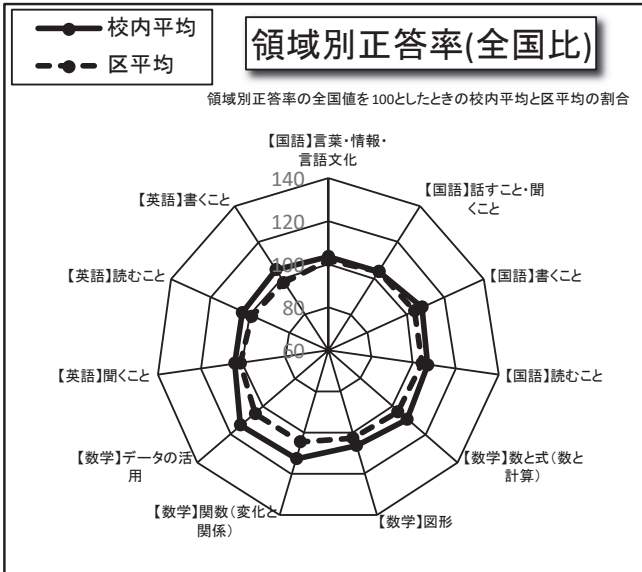
「学習定着度調査」分析結果

- 今年度、各教科を合計した学校全体の通過率は67.4%となり、昨年度の65.8%を1.6ポイントほど上回った。英語のみ1.4ポイントのマイナスとなったが、国語、数学においては2ポイントから3ポイント程度上昇した。
- 第1学年は全教科で通過率が高く、国語においては目標値を10.4ポイント上回っている。
- 各教科での通過率は前年度と比較し、それぞれ増減が見られるが、3年の英語において昨年度から21.8ポイントの減少となり、減少幅が大きくなっている。
- 領域別正答率は、3教科において区内の平均とほぼ同様の結果であるが、数学における「関数」の領域が若干下回っている。
- 学習意識の結果を見ると、昨年度区平均を3ポイント下回っていた、「学校での授業は分かる」の質問で、今年度は区平均を上回った。
- 「1ヶ月に本を2冊以上読む」と答えた生徒の割合は、区平均を5.7ポイント下回っており、昨年度と同程度の開きがある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 国語、数学、英語の各教科でA Iドリルを活用した朝学習を継続して実施する。
- 数学では、各領域ごとの正答率の向上を目指し、少人数教室授業における課題設定に配慮する。生徒の実態に即した課題となるように、数学科教員を中心にサマースクール等も活用する。
- 国語では基礎的な内容はもとより、資料や情報を収集し活用する能力の向上を目指す。様々な文章において、生徒が論理的に思考する課題を設定し、自らが考えたことを文章化したり、他者に説明したりする力を身につけさせる。
- 英語では、ペアでの活動やグループでの活動を行い、他者と共同しながら学習課題に向き合う姿勢を身につけさせる。またコンテスト等を実施し、語彙を増やすとともに、自らの生活や考えを英作文にする活動などを取り入れていく。
- 朝学習とともに朝読書も実施し、読書週間の確立を目指していく。

第十中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	73.3	72.9	67.9	78.4	78.4	77.2	80.7	68.7	60.7	60.5	71.8	65.8
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	72.6	76.5	70.4	71.4	78.6	76.6	76.7	82.7	62.0	69.7	68.2	72.4
平均正答率(R5)	76.4	59.2	66.8	77.2	72.9	75.4	76.7	52.3	63.6	75.3	51.4	64.7
平均正答率(R4)	73.8	65.1	69.9	74.9	69.6	89.3	74.0	69.4	58.3	72.4	56.0	68.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の平均正答率は全教科において区平均を上回っており、国語での向上が見られる。
- ・学校全体の通過率は、国語では向上が見られ、数学でも70%以上を維持できている。
- ・英語の通過率と平均正答率は、3年生を2年時と比較すると、どちらも向上が見られる。
《通過率》R4 62.0% → R5 65.8% 《平均正答率》R4 58.3% → R5 64.7%
- ・学習意識調査では、「学校での授業は分かる」と答えた生徒が継続して70%を超えている。
- ・昨年度は区平均を下回った項目があったが、今年度は全ての項目において区平均に同じ、もしくは上回った。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・国語：朝学習、補充学習などを利用して漢字の読み、書き、熟語の構成、文法を中心に基礎的な知識を定着させていく。読解については正確に読み取る力をつけ、条件に従って回答する力を積み重ねていく。
- ・数学：朝学習、補充学習や授業の内容を吟味し、A Iドリル等を活用して、既習の単元の復習を図るとともに、3年生では毎日の家庭学習用プリントを配布し、学力定着に努める。
- ・英語：多読・速読教材を活用し、読む力を高めるとともに、基本文等の短い文を繰り返し練習させ、書く力を高めていく。ポートフォリオを活用し、毎時間の振り返りをするとともに、学習内容を記録させ、次の授業につなげていく。
- ・朝学習、補充学習では5教科の復習に取り組むことで、全校生徒の「学習に真面目に取り組む態度」を育成するとともに、「日々の学習習慣」を確立させ、卒業までに下記の最大限の学力を身につけさせる。

国語：基本的な漢字の読み書きの力：読み 中学校学習の1623字、書き 小学校学習の1026字程度

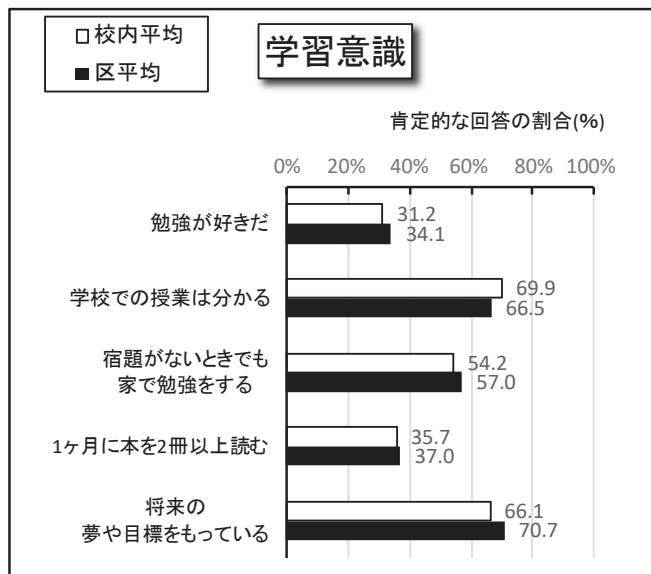
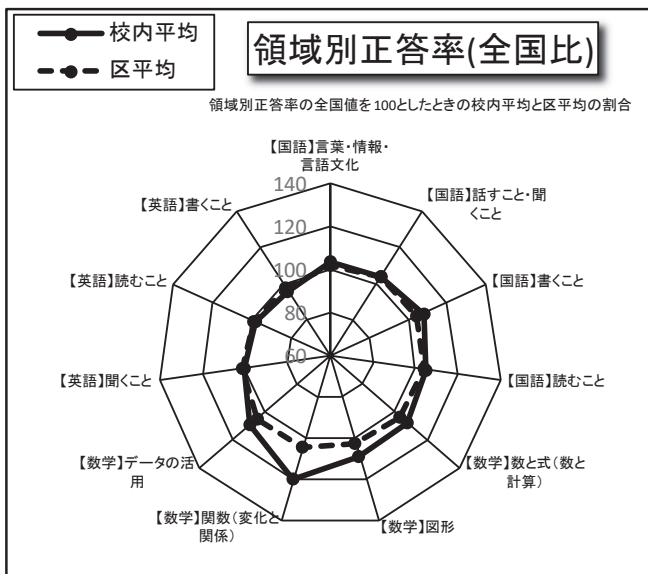
数学：正負の数、文字式、方程式の計算：都立入試大問1（基礎・基本の問題）程度の理解

英語：1200語程度の単語の定着：CEFR A1（英検3級）程度の理解

社会：地歴公民分野の重要語句の理解：重要語句、基本的な地名の理解

理科：科学に関する基礎的な概念の理解：都立入試大問1（基礎・基本の問題）程度

第十一中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	73.1	74.8	59.0	78.0	80.1	72.6	81.6	79.6	47.4	59.8	64.9	57.7
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	69.7	70.0	64.0	69.0	74.5	71.5	73.5	70.2	52.5	66.7	65.0	67.2
平均正答率(R5)	76.1	59.1	62.4	75.7	71.7	73.4	77.6	57.2	57.2	75.1	48.1	61.0
平均正答率(R4)	72.7	61.5	65.8	71.7	67.6	87.3	72.5	61.9	53.6	73.9	54.1	63.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

意識調査の結果から、本校生徒の学びの基礎力はある程度確立されている。「勉強が好きだ」は、区の平均値を若干下回ってはいるものの、他の質問項目は、区の平均値とほぼ変わらない、もしくは上回っている。学びの向上に対しては、いずれの学年も意欲があると推察される。

「学習定着度調査」結果は、比較する母体が異なるため、単純に比べることはできないが、2年生の英語、3年生の国語については、より詳細に調査結果を分析し、対策を講じる必要がある。

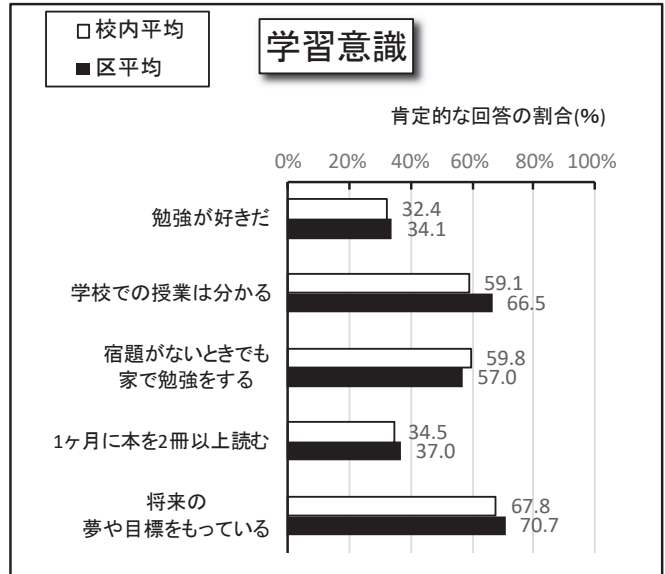
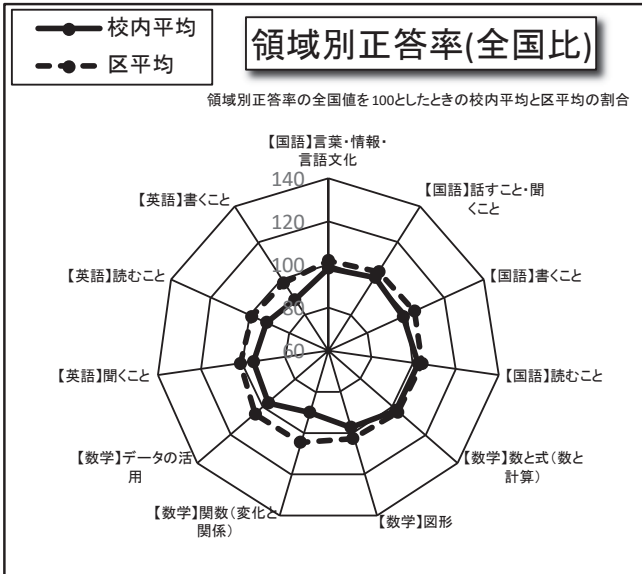
国語の「好き嫌い」については、全学年とも肯定的な意見が50～60%であるが、理解度は80～90%と、高い水準を維持している。読書活動の工夫など、興味関心を高める努力が今後必要になる。英語への抵抗感、難易度が上がる2年生は特に強く、理解度も区の平均値を大幅に下回っている。英語は「聞くこと」「話すこと」への興味関心・意欲を高め、英語への抵抗感を減少させ、「読む」力「書く」力の向上につなげていく必要がある。算数・数学については、抵抗感も低く、基礎学力の定着が見られる生徒が多い。しかし、一方で、「解き方がわからない時は、諦めずにいろいろな方法を考える」と答えた生徒の割合が、60～80%であり、区の平均を下回っている学年もある。思考力や主体的に学ぶ態度を育成していく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

上記の分析結果に基づき、以下の取り組みを展開する。

- 1 AIドリルの積極的な活用による知識の定着
- 2 Google Workspase for Educationを活用した学習の推進 思考力・表現力の向上
- 3 学校図書館司書と連携した朝読書活動の充実 読解力の向上
- 4 学力定着指導員との連携 3教科(国語、数学、英語)担当教員の指導力の向上
- 5 授業力向上研修の実施
- 6 定期考査前質問教室の実施
- 7 足立スタンダードに基づく授業の実施

第十二中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	65.0	60.5	51.5	65.5	67.1	65.9	74.1	52.8	43.5	55.6	63.0	48.1
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	64.7	61.7	56.7	63.1	72.1	69.4	73.7	69.7	38.4	58.6	44.8	60.3
平均正答率(R5)	73.0	51.0	58.3	71.3	62.6	69.2	74.3	45.9	55.8	73.0	46.1	55.3
平均正答率(R4)	70.7	57.1	63.2	70.6	66.4	87.3	70.0	61.9	48.9	71.3	43.8	60.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○国語

1学年と3学年の通過率が低く、どの学年も区の平均よりも正答率が低い。特に書くことへの取り組みの改善と、文章で自分の考えを書くことへの苦手意識の払拭を目指して、授業を組み立てる必要がある。

○数学

学校全体では、通過率は昨年度と比べ、1.2ポイント低下した。学年別の通過率は、3学年(前年度の2学年)は、6.7ポイント低下、2学年(前年度1学年)は19.3ポイント低下した。2学年は、基礎的な知識・技能の習得に課題があり、通過率の低下の原因と考えられる。3学年は、関数・データの分析の領域が苦手な生徒が多いことが原因と考えられる。

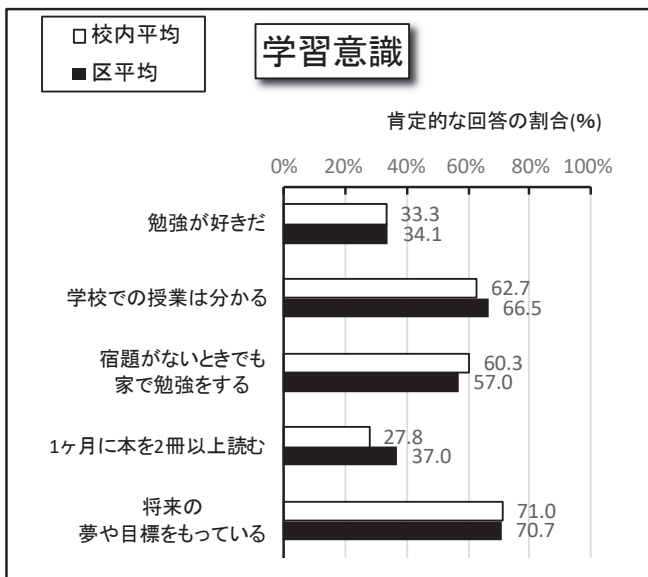
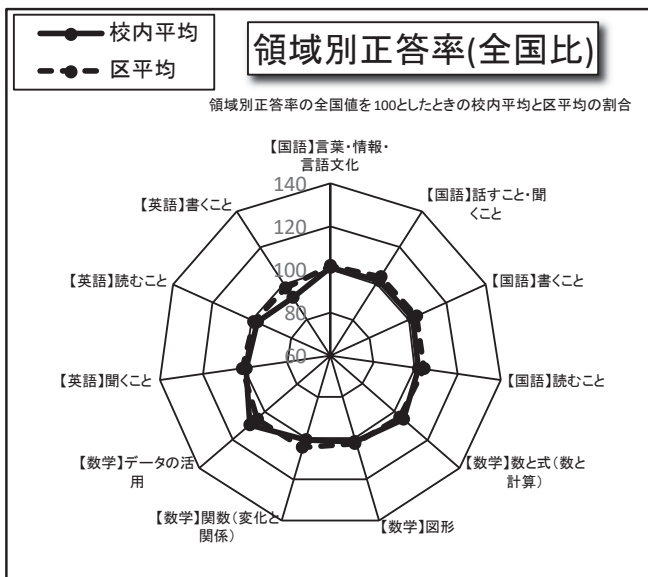
○英語

1学年、3学年の平均正答率は昨年度より下がっており、特に1学年は約18ポイントも下がっている。2学年はすべての項目において5ポイント以上上昇しているが、学校全体の通過率は約5ポイント下がっている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 家庭学習を自主学習ノートに1日1ページやっていることもあり、宿題がないときでも家で勉強をする習慣を身につけさせている。
- 数学特訓やサマースクールを実施し、それまでの基礎・基本の定着が不十分な生徒の指導に全教員で協力して指導にあたる。
- 英検・漢検・数検など、各種検定の受験を積極的に推奨している。
- 開かれた学校づくり協議会と連携し、毎週土曜日に「サタデースクール」を実施している。自学自習の取り組みで希望者が参加しており、基礎・基本の定着を図っている。
- 家庭学習強化週間や学習コンテストの取り組みを例年行っているが、学力の定着に今一步結びついていないのは、大人になったときの夢や目標を持っている生徒の割合が低いことが関係しているのではないかと考えられる。学習意欲を高め学力の定着をめざすために、引き続きキャリア教育の充実を図っていく。

第十三中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	68.7	70.5	57.3	69.8	75.1	70.4	80.7	69.6	48.6	55.1	66.5	52.3
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	59.9	67.2	56.2	61.5	79.9	67.0	71.7	67.6	51.7	45.3	51.6	47.8
平均正答率(R5)	73.7	56.5	61.4	70.7	69.4	71.3	77.8	52.4	58.0	72.7	45.6	58.2
平均正答率(R4)	68.7	60.1	61.8	69.9	68.5	84.7	70.5	61.8	52.6	65.4	47.8	54.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

前年度と比較すると、学校全体の通過率は3教科全てにおいて少しではあるが「増加傾向」となった。しかし、通過率を区平均と比較すると、2年生は英語で-6.4ポイント、3年生は国語が-4.2ポイント、英語が-5.5ポイントとなっている。数学に関しては、1年生の-2.3ポイントを除き、2年生で+4.7ポイント3年生で+6ポイントと通過率が上昇した。少人数授業やA Iドリルの積極的な活用の効果が反映されていると考えられる。

領域別正答率において、国語・英語ともに「書くこと」が、数学では「関数(変化と関係)」に苦手意識が見受けられる。このことから、「文字を読み解く力」と「表現力」、「思考力」の育成・底上げが今後の課題である。

学習意識において、「学校での授業は分かる」が区平均を下回っていることから、生徒の「語彙力を豊かにすること」と、教員の指導力向上が上記課題解決の糸口になっていくと考えている。

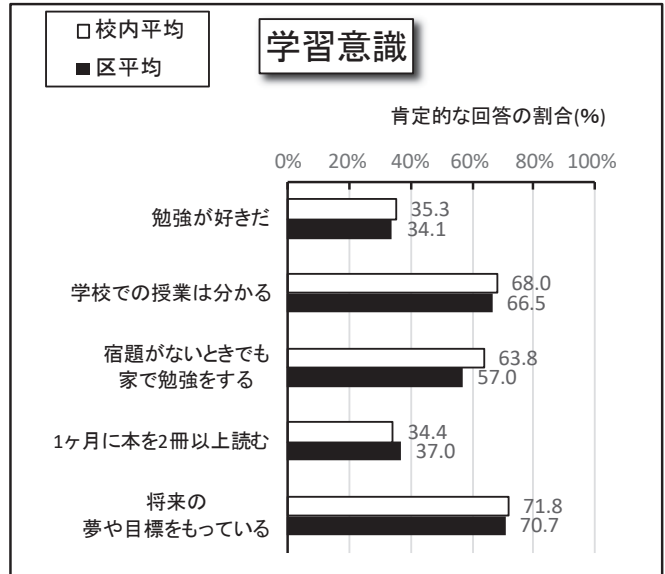
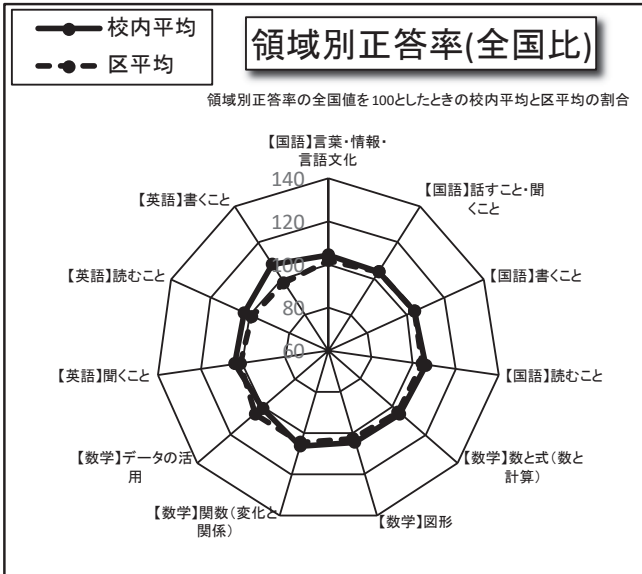
学校による学力向上への主な取り組み

まずは「学びの基礎力向上」のために、朝学習や放課後補充教室において、A Iドリルを活用し「繰り返し学習」を進め、学力の定着を図っていく。一方で、教員相互の授業観察を行う機会を設け、「ICT機器の新たな活用方法」、「理解しやすい伝え方」の向上をめざしていく。また、年に2回授業アンケートを実施し、自身の授業を客観的に分析させることで弱点の改善を求めていく。

「読むこと」への対策として、図書委員が同年代の目線でプロデュースした「本の紹介」を掲示し、図書館の利用促進を図る。また、前年度に取り組んだ「ビブリオバトル」を今年度も夏休み中に図書委員と文芸部が実施した。その成果を各学年のフロアに掲示し、「本への興味」を醸し出す工夫を推進していく。

さらに、新聞記事を活用した学習を朝学習などで定期的に行い、記事を通じて「見聞」を広めることで「語彙力」を育てていく。

第十四中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	73.2	68.2	70.0	76.5	81.3	80.2	75.9	62.5	53.6	66.5	58.1	74.4
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	72.6	70.5	67.2	74.9	79.3	68.3	74.0	70.9	64.0	69.1	62.2	69.1
平均正答率(R5)	76.4	57.5	67.9	77.3	75.1	76.3	76.1	47.7	59.7	75.6	44.2	69.7
平均正答率(R4)	73.1	61.7	68.6	73.7	70.2	86.5	71.7	63.1	60.6	73.8	52.4	65.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

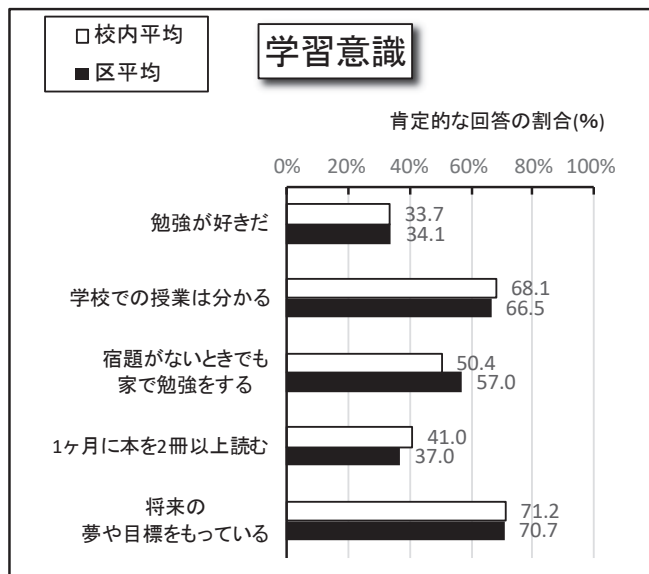
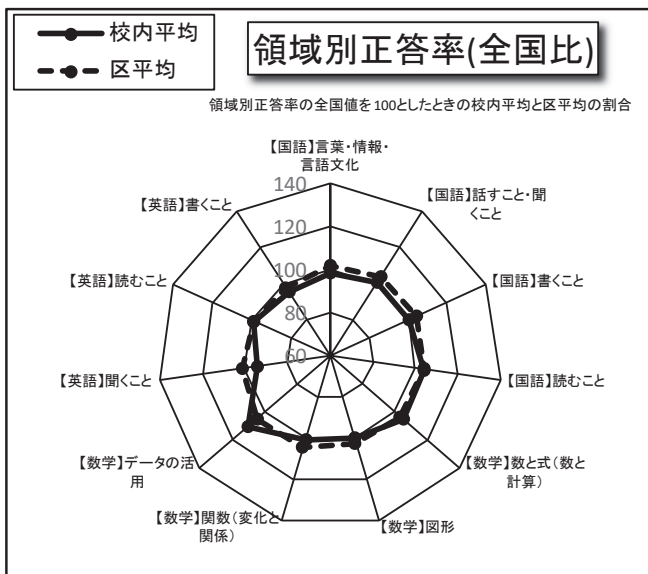
「学習定着度調査」分析結果

- 「国語」は全学年が区平均を上回った。1年生は「書くこと」+3.3、「漢字の書き」+5.3である。2年生の「言語文化」+5.6は、演習に丁寧に取り組んだ成果である。今後も記述問題に慣れていく取り組みを継続する。3年生は「漢字の書き」+9.9、「情報の扱い方」は-5.4である。読書の習慣づくり等により、文章慣れをしていくことが課題となる。
- 「数学」は1年生の「図形」は5ポイント以上上回った。「データの活用」については、より伸ばしていきたい領域である。2年生は「数と式」は区平均と同数値であるが、「図形」が-4.5、特に「空間図形」に課題がある。3年生は「図形」が+6.1であるが「データの活用」-7.7、「確率」-9.2である。A層、D層の差が大きいことも課題である。
- 「英語」は1年生、3年生では区平均を上回った。1年生の領域「書くこと」は区平均+6.9ポイントであるが、「読むこと」は平均と変わらないため、より伸ばしていきたい。2年生は「必要な情報の読み取り」+6、「日常的な場面に応じた英文記述」-1.5。A層、D層の差の開きや記述を中心とした基礎力の底上げが課題である。3年生はほとんどの領域・単元が区平均を上回っているが、D層の学力を向上させることが課題となる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 放課後の補充教室で、各教科の演習や個別学習を行い、苦手教科や苦手分野の補習をしている。また、放課後の補充教室で、各教科の演習や個別学習を行い、苦手教科や苦手分野の補習をしている。さらに、夏季休業中に、全学年の希望者を対象としたサマースクールを開催し、基礎・基本の充実を図るとともに、生徒の学力向上へ繋げている。
- 漢字・英単語・計算コンテスト・サイエンスコンテストを実施し、漢字力・語彙力・計算力を向上させることで、やればできるという達成感を体験し、学習意欲の向上を図る。そして、次の目標を設定し、さらに達成しようとする意欲を育てていく。
- 令和5年度足立区教育委員会の指定を受け、授業改善推進校としての取り組みを行っている。①授業のめあてを提示し、学習の見通しを立てる②自分で考え解決する③自分の考えを発表する、他の人の考えを聞く④授業の振り返りの時間に、自分の言葉で、学んだことを整理できる。以上の授業における共通実践事項を定め、一貫した授業スタイルを確立させる。

青井中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	64.9	74.2	60.8	51.6	51.6	54.8	86.5	89.2	86.5	51.7	79.3	34.5
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	65.2	71.4	67.9	82.1	82.1	84.6	65.5	75.9	51.7	50.0	59.1	63.6
平均正答率(R5)	73.7	55.8	62.5	64.7	55.4	65.1	82.4	62.1	73.4	72.2	48.5	47.2
平均正答率(R4)	70.6	60.4	63.9	77.2	72.3	91.0	64.8	59.9	47.0	68.5	49.8	59.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

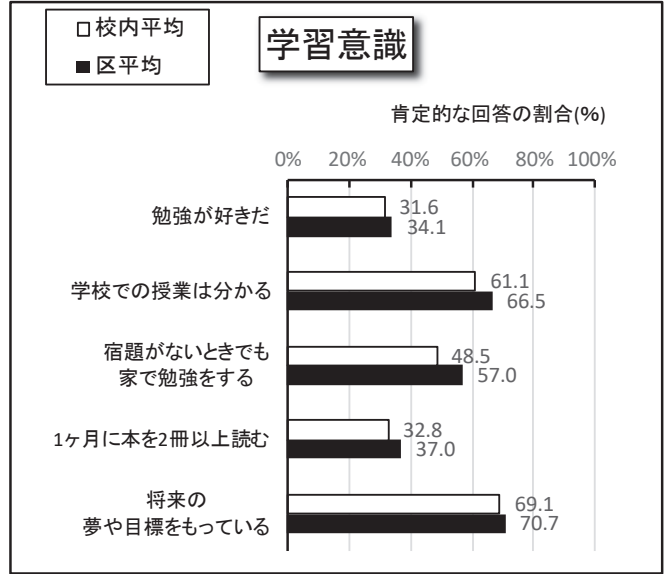
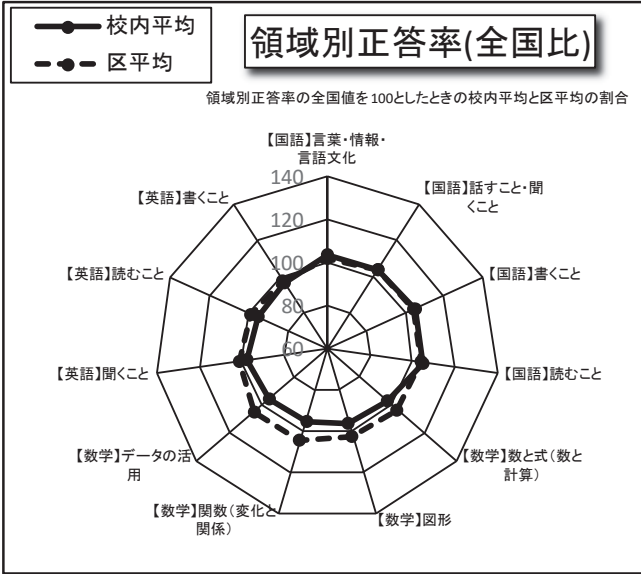
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、昨年度より国語は上がったが、数学・英語ともに下がっている。
- 数学は、全学年習熟度別少人数授業を実施しているので、2・3年生の通過率は高かった。
- 観点別正答率では、全学年とも数学の「思考・判断・表現」が区平均を下回り、特に1・3年生は顕著である。また、3年生は英語の「知識・技能」「思考・判断・表現」とも区平均を大きく下回っている。いずれも、Qubenaを活用した家庭学習をはじめ、復習の徹底などで対応していきたい。数学は、習熟度別少人数授業を継続し、課題解決に努めたい。
- 学力層割合は、2年生全教科、3年生国語・数学の経年変化では順調にD層からの脱却が進んでいる一方、1年生全教科と3年生英語のD層が学年のほぼ半数近くおり、学習習慣の確立や、目的意識・興味関心をもたせる対策を打つ必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 国・数・英・社・理の五教科について、家庭学習の定着を図るため、Qubenaを活用した課題学習と放課後補充学習を全員対象で実施している。
- 数学では、全学年習熟度別少人数授業を行っている。
- 数学では、振り返りシートと単元テストを活用し、随時定着度を図り、授業改善に生かしている。
- 読解力の定着を図るため、毎朝10分間の朝読書を徹底している。
- 授業時に、積極的にペア学習やグループ学習を導入している。
- 漢字検定・英語検定・数学検定を実施し、検定級取得を奨励している。
- 生徒一人ひとりの状況など、必要に応じて複数の教員で授業や特別活動に対応できるよう、全体で行動している。
- 道徳・特別活動・キャリア教育・行事の各場面を通して、自己肯定感と自己有用感を醸成し、自尊感情を高める指導を目指している。

伊興中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	71.4	61.2	61.2	74.3	76.0	77.7	84.2	55.1	55.1	55.8	51.2	49.4
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	69.2	64.9	68.1	70.2	74.9	72.5	73.5	57.8	55.9	64.0	61.6	75.6
平均正答率(R5)	75.6	52.6	61.8	74.4	69.0	73.4	80.2	44.0	60.4	72.4	41.5	55.4
平均正答率(R4)	72.4	58.5	67.7	73.1	68.7	87.1	71.4	55.3	53.4	72.7	50.6	68.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語は1年生は区平均より正答率は-0.5、通過率は+0.4である。単元別では「漢字の書き」や「文学的な文章」が低い数値となっている。2年生は区平均より正答率は+4.0、通過率は+6.7と高く、概ね昨年度の内容が身につけている。特に記述式問題では「短答式」4.7%、「記述式」で84.7%と高い。3年生は区平均より正答率は-1.6、通過率は-3.5である。特に「思考・判断・表現」の記述式の正答率が低い。一方で知識・技能の「短答式」の問題は得意である。

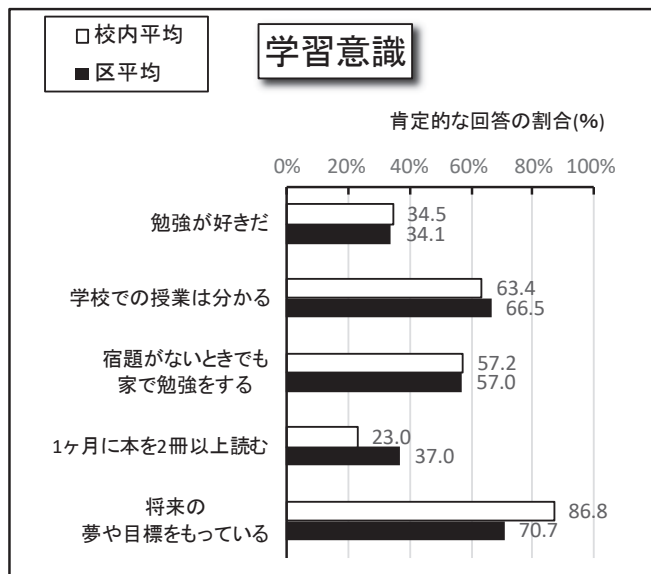
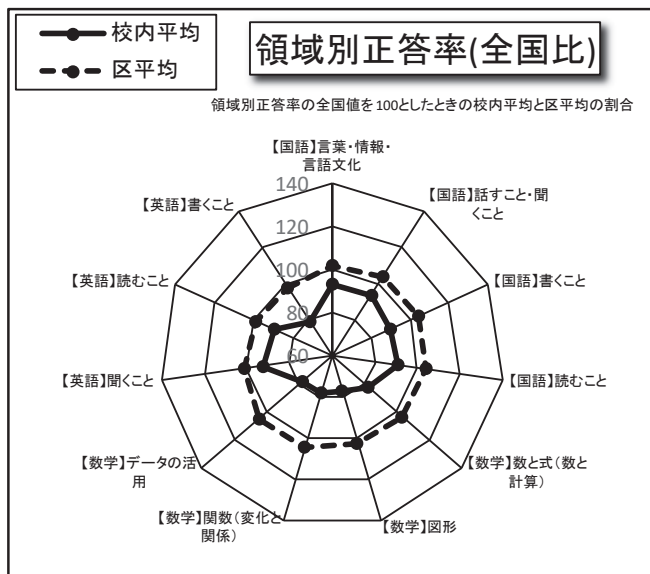
数学は1年生は区平均より正答率は-1.6、通過率は-1.4であるが、「知識・技能」の観点が高い。一方で「記述式」では「データの活用」が7.8%と高く、「起こりうる場合」が1.1%低い。授業では「思考・判断・表現」の記述式の問題を多く取り入れていく。2年生は区平均より正答率は-5.7、通過率は-9.8と大きく下回っている。「文字式の計算」「比例式の解き方」「作図」に苦手意識を持っている。3年生は区平均より正答率は-4.8、通過率は-9.3である。基本的な計算を丁寧に解く力が弱い。「関数分野」に苦手意識が強く、文章を用いて説明する力に偏りがある。単元テストで定着度を上げていく。

英語は1年生は区平均より正答率は-0.3、通過率は+1.2で小学校からの英語学習がある程度身につけている。「単語の読み取り」が-0.4と低く、「文字の記述」を中心にデジタル教科書・AIドリルを用いて反復練習をする。2年生は区平均より+0.3、通過率は+0.1で、「書くこと」が+1.7%上回っていた。一方、「情報の聞き取り」が3.3%と低いため、リスニングやALTとの対話練習を取り入れていく。3年生は区平均より正答率は-4.7、通過率は-8.4で、「聞くことは」69.5%と比較的高いが、「書くこと」が28.4%と低い。個別指導を取り入れていく。

学校による学力向上への主な取り組み

各教科では単元の終わりに「単元テスト」「小テスト」、学年の取り組みとして「計算コンテスト」「漢字コンテスト」「スピーキングテスト」「スペリングテスト」を実施し、基礎・基本の定着を図る。また、図書館利用により読書習慣や調べる学習に活用させていく。夏前には1、2年生の復習問題に取り組み、サマースクールや放課後補充教室では数学・英語補充を重点的に設定し、AIドリルなどを活用して中下位層、下位層の底上げを図る。少人数学習、ペア・グループ学習で思考力を問う問題にも挑戦させていく。

入谷中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	51.8	40.0	44.7	57.9	57.9	63.2	69.2	50.0	30.8	37.5	25.0	45.0
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	58.8	52.6	47.4	65.5	55.2	58.6	61.0	48.8	39.0	48.1	55.6	48.1
平均正答率(R5)	67.8	39.4	54.0	65.2	57.5	71.2	71.0	40.7	50.6	66.9	29.4	51.2
平均正答率(R4)	67.3	52.3	56.4	69.5	61.0	83.1	63.2	50.6	44.0	71.0	45.3	57.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語科】令和4年度と比較して、目標値は全学年で上がっているが、通過率は2学年では上がっているものの、1・3学年では下がっている。読書習慣の確立や読む力を伸ばすことが課題である。放課後の読書タイムの活用や授業内での読書指導を進めていく。

【数学科】令和4年度と比較して、1・2年生の通過率は少々向上しているが、3年生は30ポイント以上下がっている。その要因として、1・2年生の数学に対する意欲が向上したこと、3年生の意欲が低下していることが読み取れる。また、領域として全体的に課題があり、中学校3年間を通じて、数学への理解を積極的に深めていかなければならない。

【英語科】令和4年度と比較して、1年生の通過率が上昇している。3年生は2学年時からの経年で見ると上昇している。領域別では「書くこと」の数値が区平均より校内平均が大幅に低い。全学年を通じて自分の意見を英語で書く機会を多く設け、練習していく。

学校による学力向上への主な取り組み

【わくわくクラブ】全学年：英語・数学：週4日30分：指名：全教員による個別指導。

【わくわく補習教室】全学年：5教科：定期考査前1週間・三者面談期間50分：指名＋希望：全教員による補充問題。

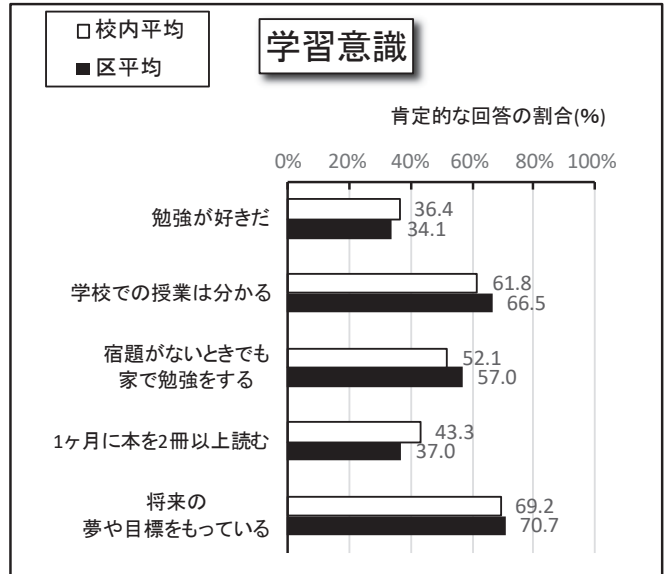
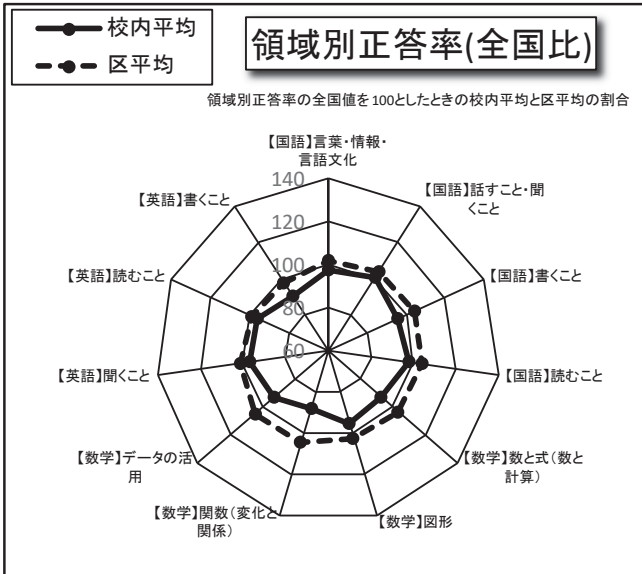
【サマースクール】全学年：5教科：夏休み期間中6日間50分×3コマ：指名＋希望：全教員による補充問題。

【国語科】朝学習の時間には、Qubenaを活用したり、漢字練習プリントに取り組んだりしている。授業の初めには、毎時間漢字テストを実施している。授業では、話し合い・学び合い活動を多く取り入れている。

【数学科】習熟度別やティーム・ティーチングの授業を実施。また毎時間ごとに振り返りを行い、生徒の苦手とする箇所を把握し、次回の授業に役立てるようにしている。興味関心をひく導入をしている。

【英語科】帯活動でスピーキング、振り返りで英文を書くなどして1時間の授業の中で4技能を育む授業計画を立てている。デジタル教材やICTを広く利用し、各自で練習したり取り組んだ内容を提出させるなどし、教員からフィードバックをすることで能力の向上に役立てている。

入谷南中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	60.7	57.3	54.2	67.6	62.2	65.8	62.5	56.2	47.1	52.2	53.9	50.4
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	63.0	61.1	60.8	63.3	70.0	69.2	69.3	64.0	53.3	58.7	50.4	57.0
平均正答率(R5)	71.2	49.8	59.9	70.2	63.0	68.7	70.6	45.4	57.7	72.9	40.8	57.0
平均正答率(R4)	70.7	56.6	65.9	71.6	65.5	86.9	70.1	57.5	53.0	70.0	46.9	60.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語に関して校内平均と区平均を比較すると、正答率では1年生は4.7ポイント、2年生は5.6ポイント、3年生は1.5ポイント、下回っている。領域別正答率では、話すこと・聞くことは区平均と同等の正答率である。一方で、書くことと読むことが区平均を下回っているため、特に改善を要すると考えられる。

数学に関して校内平均と区平均を比較すると、正答率では1年生は7.6ポイント、2年生は4.3ポイント、3年生は5.3ポイント、下回っている。領域別正答率では、数と式、図形、関数、データの活用において区平均を下回っているが、特に関数における正答率の差が大きい。

英語に関して校内平均と区平均を比較すると、正答率では1年生は4.0ポイント、2年生は2.4ポイント、3年生は3.1ポイント、下回っている。領域別正答率では、聞くことと読むことは区平均と同等の正答率である。一方で、書くことが区平均を下回っているため、特に改善を要すると考えられる。

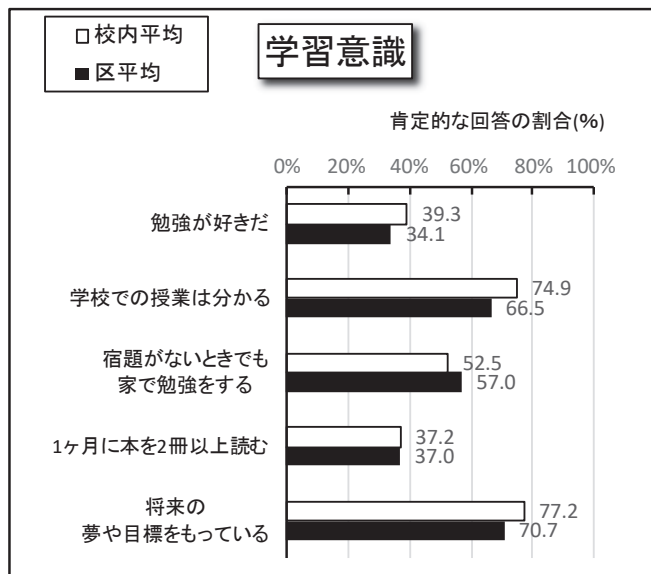
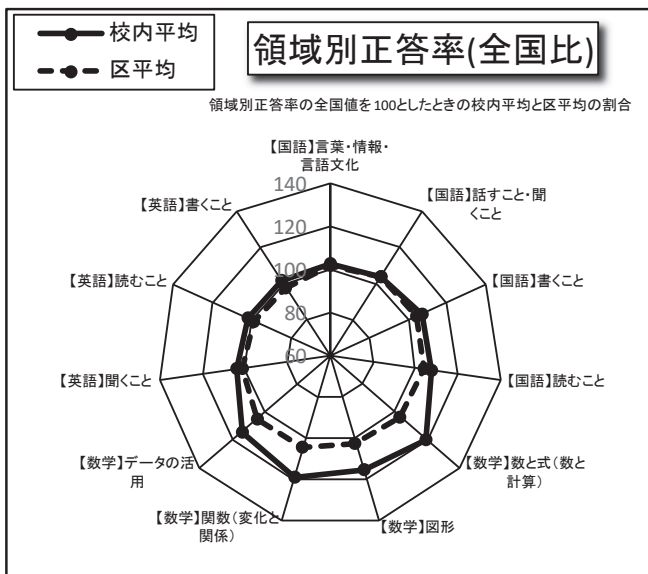
学校による学力向上への主な取り組み

国語に関しては、1年生では、小学校の復習を確実にやり、知識・技能を積み上げるよう指導する。2年生では、中学1年生の復習を行い、基礎的な知識を定着させられるよう指導する。3年生では、前年度までの基礎的な内容の復習を行いながら、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの指導をバランスよく行う。

数学に関しては、授業の最初に、前回の復習を授業毎に行い学習内容の定着を図る。関数(変化との関係)においては、1年生の段階で学習内容が定着できるようにスモールステップで指導する。また、2年生と3年生では、前学年までの学習内容が定着できるよう復習を交えながら、新出の学習事項を指導する。

英語に関しては、書くことの活動を増やし学力の向上を図る。口頭練習で話したことを書くなどの初歩的な活動を行ないつつ、目的・場面・状況を設定した活動の中で、主題+理由+結論のような構成を意識して書く指導を継続する。また、聞くことと読むことに関しては、目的・場面・状況を設定した活動を繰り返し行い、概要や要点などを掴めるようにし、自分の考えやその理由・根拠を英語で表現する練習を行う。

扇中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	72.0	81.5	69.7	71.4	84.1	74.2	82.9	77.1	68.6	58.9	83.9	66.1
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	68.2	81.0	70.8	62.2	83.8	77.0	75.0	83.9	58.9	69.2	75.4	73.8
平均正答率(R5)	76.4	63.2	67.0	75.5	74.7	71.6	78.8	55.4	67.4	74.6	58.7	63.3
平均正答率(R4)	73.5	68.1	69.4	71.3	70.2	89.1	73.2	71.5	56.1	76.1	62.7	66.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

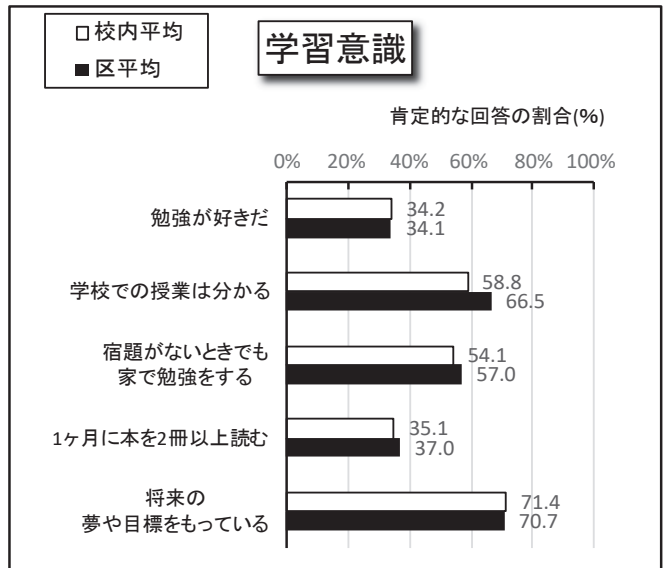
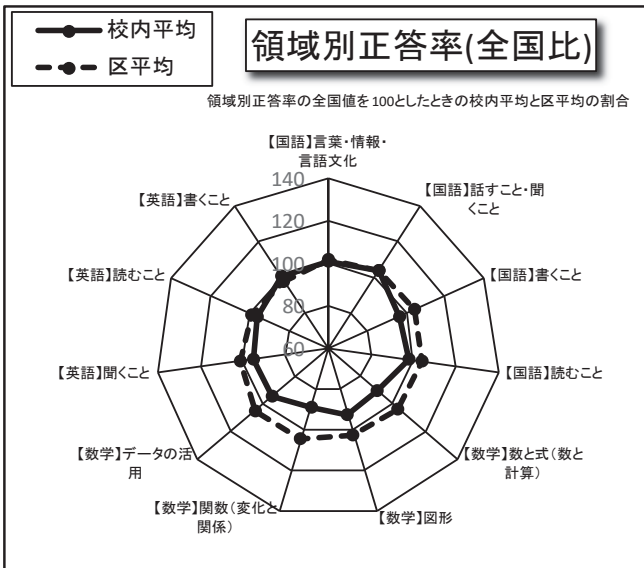
「学習定着度調査」分析結果

- 国語 1年生の通過率は区の平均よりも2.5ポイント低かった。2年生の通過率は、区の平均よりも5.4ポイント高かった。自分の意見を発表する学習や、話し合いの機会を設けたことが成果として現れた。3年生は、「記述」問題はよくできていた。「文学的な文章」を読み取る力が課題である。
- 数学 通過率は、全学年とも良好で、全体では、区の平均よりも14.1ポイント高かった。また、思考・判断・表現が、区平均を大幅に上回った。少人数習熟度別授業において課題解決に向けて自ら考えさせる指導、考え方や理由を言葉で説明する指導を強化したことが、成果として現れている。
- 英語 1年生の通過率は、区の平均よりも2.3ポイント低かった。2、3年生の通過率は区の平均を大きく上回った。少人数習熟度別授業において、ペアワークやグループワークを効果的に実施し、英語で表現する機会を増やしたことや、教材・教具を工夫したことが成果として現れている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 調査結果のSP表を分析し、個々の課題を明確にし、それを改善する授業を実践する。
- 授業において前時の内容の振り返りや、既習事項を盛り込む。また、ねらいの明確化や、発問・授業形態の工夫により、主体的かつ対話的な授業を実現する。
- AIドリルを活用した放課後20分間の補充学習を充実させる。個々の課題について演習を中心に行い、個別指導や少人数指導を充実させる。
- タブレットを活用し、上級生が下級生に教える小中学校の交流学习を計画的に行う。
- 夏季休業日中の6日間、国語・数学・英語・理科・社会の補充学習を行う。定期試験で解けなかった問題の直しや、授業で理解が不十分な内容について補充学習を行う。
- 家庭学習ノートを活用し、毎日自宅学習を行うことで、学習習慣を定着させる。
- 「興本扇の45冊」を選定し読書への関心を深めさせる。読書旬間として年2回、読書活動推進期間を設ける。また、読書カードの活用やおすすめの本カードを作成させ、読書活動を充実させる。

加賀中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	63.6	53.0	60.9	54.5	50.0	70.5	80.0	62.0	62.0	56.1	47.4	52.6
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	58.2	51.6	51.6	56.7	65.0	60.0	60.0	50.0	43.3	57.8	40.6	51.6
平均正答率(R5)	73.2	48.4	62.6	69.2	57.9	69.5	76.0	47.7	65.3	73.9	41.0	57.0
平均正答率(R4)	68.6	53.3	59.4	69.0	63.5	84.7	68.7	54.5	49.7	68.1	42.2	53.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

(同一集団の経年比較)

【国語】現2年生は、平均正答率が6.96ポイント上がり、通過率は23.34ポイントも上がっている。概ね良好な結果を修めている。現3年生は、平均正答率が5.18ポイント上がっているが、一方で通過率が3.86ポイント下がっている。＜言葉・情報・言語文化＞については概ね良い数値だが、＜読むこと＞の数値が低く、学校全体での取り組みが必要である。

【数学】現2年生は、平均正答率が15.82ポイント下がっており、通過率は3ポイント下がっている。現3年生は、平均正答率が13.48ポイント下がっており、通過率も2.64ポイント下がっている。全体的に数値が低く、学校全体で改善する必要がある。

【英語】現2年生は、平均正答率が19.41ポイント下がっているが、通過率は2ポイント上がっている。現3年生は平均正答率が7.27ポイント上がっており、通過率も9.3ポイント上がっている。特に＜書くこと＞の数値が低いため、学校全体としての補強をしていきたい。

学校による学力向上への主な取り組み

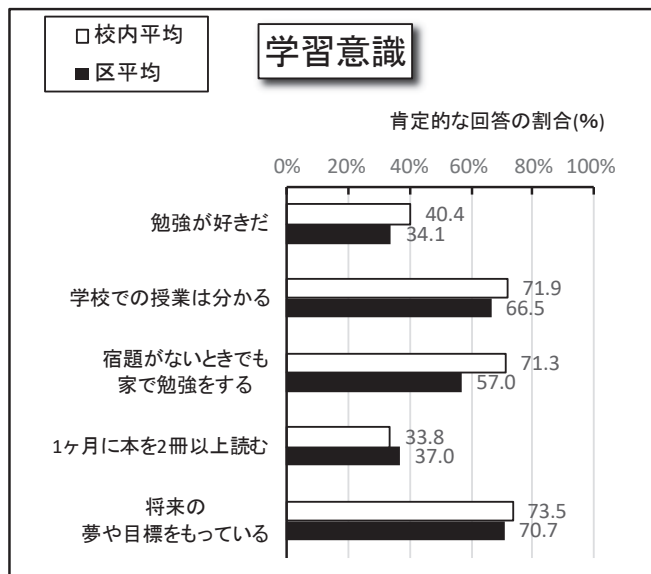
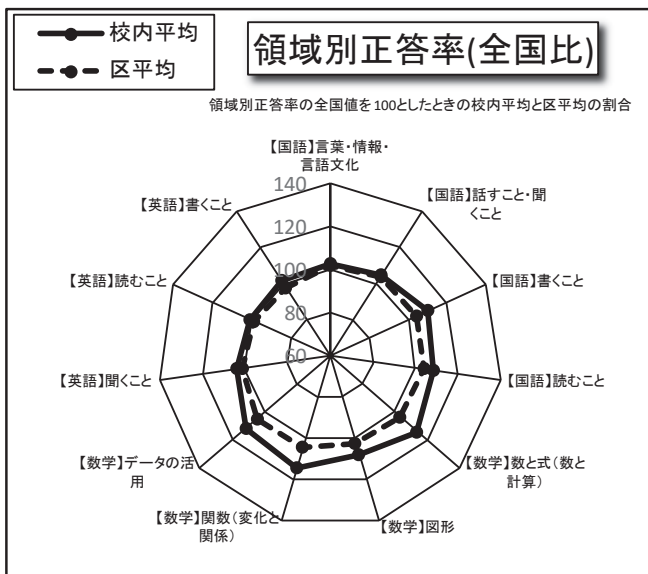
【国語】全体的に学習の成果が出ており数値に表れている。朝読書、週1回の新聞書き写し、週2回の学習ドリル(5教科)を実施し、読書・学習の習慣化を図る。またビブリオバトルでは話す力を中心に身に付けさせ、読む力も同時に向上させていきたい。

【数学】まずは基礎基本の定着に重きを置き、授業内での基本的計算問題等、必ず取り組ませる。また、数学的な思考力と表現力を高める話し合い活動も充実させ、定期的な単元テストを授業内で実施して定着度を確認し、未定着の部分の補充を家庭学習の課題や放課後補充教室等でも学習させる。

【英語】毎授業において、話す力、聞く力をさらに向上するように取り組んでいく。また、思考力と表現力を高める話し合い活動も充実させ、定期的に単元テストを授業内で実施し、定着度を確認する。さらに、授業の振り返りでA Iドリルの活用や読む書く話す等の振り返りを行い、今回の調査の課題克服に向けて指導を積み重ねていく。

【全体】定期考査前に補充教室を行い、基礎基本の定着を図り、サマースクールにおいて、全校体制で基礎基本の定着をめざす。年度末には、次学年の区調査の問題を利用し、今年度の学習内容の理解度、定着度を測っていく。

蒲原中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	74.5	75.1	69.4	72.0	76.2	77.4	74.2	74.2	59.9	76.9	74.9	70.5
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	72.6	71.5	62.6	69.4	74.7	72.9	85.1	76.4	52.8	61.7	62.9	63.4
平均正答率(R5)	76.5	59.9	66.4	75.3	71.2	74.7	73.4	53.4	61.4	80.3	54.4	66.0
平均正答率(R4)	73.7	62.3	64.6	73.5	69.1	86.8	76.9	66.2	54.2	70.3	51.1	62.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【3学年】

すべての教科で区の平均を大きく上回り、これまで行ってきた学力向上を目指した取り組みの成果が見られた。

【2学年】

すべての教科の領域で概ね区の平均を上回っているが、国語の「言葉・情報・言語文化」、数学の「データの活用」、英語の「読むこと」の領域が区の平均をわずかに下回っている。

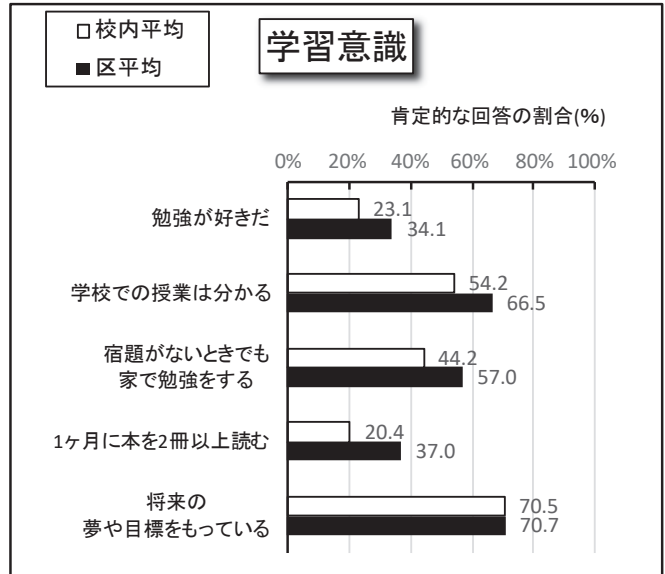
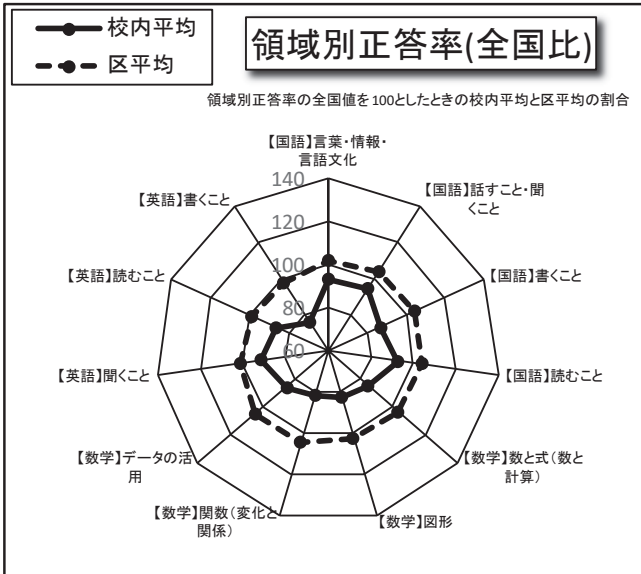
【1学年】

概ね区の平均と同水準の成果を上げているが、英語の「書くこと」が区の平均を大きく下回っている。2年生に向けて、「書くこと」の領域について、強化する必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・学びタイム(朝):全学年を対象に、基礎学力定着を目的として、月から金曜日の8時30分から25分間設定している。漢字・計算・英単語スペリングコンテストを開催し、成績優秀者を表彰するなど学習意欲を喚起している。
- ・質問教室:定期考査前の一週間、放課後の時間に自習する教室を提供している。わからないところは質問できるように教科指導の教員が巡回している。
- ・サマースクール:夏季休業中に学年ごとに6日以上補充学習を行う。学年や教科によって選択制・希望制により行っている。
- ・小中連携:校区にある東淵江小学校、北三谷小学校と連携し、相互の授業見学や指導案研究などを通じ、9年間連続した学びが、生徒にとって効果的になるように工夫・改善を行う。
- ・評価・評定説明会:新学習指導要領の実施に伴う不安の解消を図るため、保護者を対象に各教科担当から評価の方法などの説明を行った。

栗島中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	56.4	50.5	45.4	60.0	58.2	61.8	66.7	62.3	42.9	40.3	29.0	34.4
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	58.8	57.1	53.9	66.3	72.3	68.7	54.7	42.2	29.0	48.6	48.6	62.9
平均正答率(R5)	68.0	44.7	52.9	65.8	58.3	68.4	72.5	47.8	51.4	64.2	28.2	46.3
平均正答率(R4)	67.1	54.3	62.1	71.4	65.8	87.3	60.7	42.6	41.6	68.6	47.5	60.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

本校の領域別正答率は、全体的に区の平均よりも低い傾向がある。特に、英語・国語の「書くこと」と、数学に関しては全体的に低い正答率である。一方で、英語・国語の「書くこと」以外の項目は、区平均よりも低いものの、「書くこと」に比べると正答している生徒が多いことがわかる。「書くこと」は反復学習を行わないと定着の難しい項目であるため、その点が不足しているのではないかと考える。

学習意識では、「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目が区平均より低くなっている。一方で、「将来の夢や目標を持っている」の項目は、区平均とほぼ同じであった。将来の夢や目標はあるものの、日々の学習への意識には結びついていないようである。

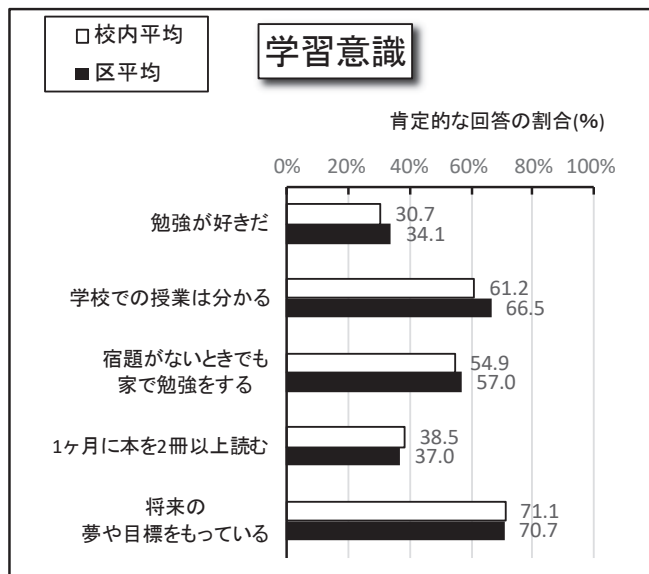
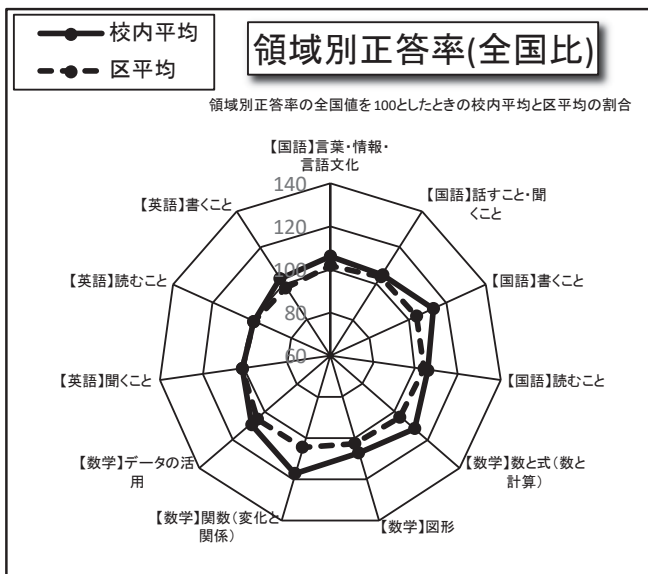
学校による学力向上への主な取り組み

①「自ら学ぶ力」と②「粘り強さ」を身につけさせる取り組みをしていく。

①「自ら学ぶ力」…本校で年間を通じて行っている「学力コンテスト」では、事前に問題と解答を配布している100問ほどの問題について期間を設けて学習に取り組んでいる。そのような学習には積極的に取り組むことができる生徒が多いが、自ら学び方を考えることが難しい生徒が多くいる。また、課題が出なければ学習をしない生徒も多いため、自ら学ぶ力を高めていく必要があると感じる。学習のやり方を提示し、根気強く学習の方法を身につけさせていく。

②「粘り強さ」…授業中やテストにおいてわからない問題に長時間取り組むことが難しい生徒が全体的に多い。わからない問題に対して、「粘り強く」取り組むことや、解くための手がかりを少しずつ探しながら解答に近付いていく姿勢が課題であると感じる。声掛けをしながら、「粘り強く学習に取り組む」機会を設け、達成感を得る体験をすることで粘り強さが増してくるよう支援していきたい。

江南中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	76.1	72.3	62.6	80.4	89.1	73.9	75.4	64.9	49.1	73.1	65.4	67.3
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	64.3	66.4	58.7	61.4	78.9	68.4	84.0	74.0	64.0	41.7	36.1	36.1
平均正答率(R5)	77.5	59.1	63.2	78.4	77.1	75.9	76.1	48.6	57.6	78.3	53.0	62.2
平均正答率(R4)	70.5	61.1	64.0	71.0	71.9	85.0	74.0	64.0	58.5	64.8	39.2	50.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

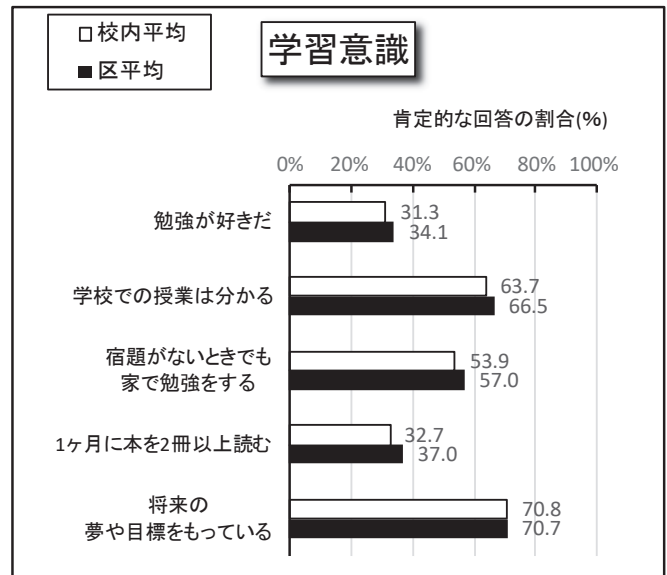
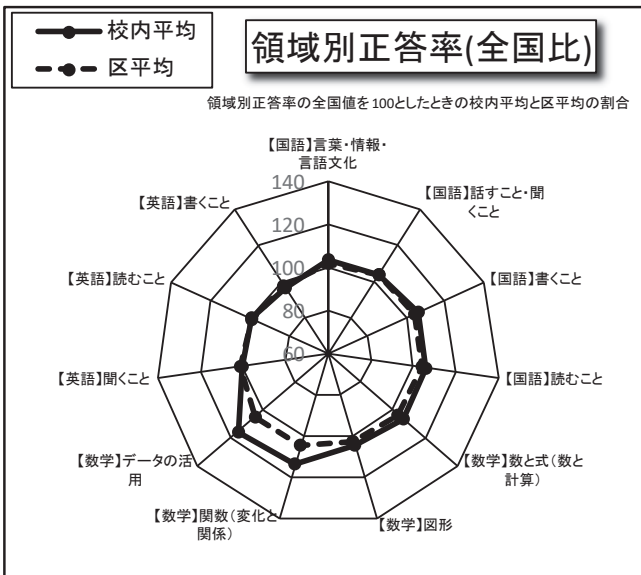
「学習定着度調査」分析結果

- 国語:全領域において、全国値、区平均を上回っている。特に「書くこと」の領域が高いため、このまま「書くこと」に慣れさせる課題を続けていく。一方で、「言葉・情報・言語文化」の項目は平均並であるので、補充教室等でQubenaを使い、知識を習得させる。通過率も平均正答率も、学校全体で昨年を上回っている。
- 数学:全領域とも、区平均、全国値を上回っている。「関数」は特に正答率が高くなっている。平均正答率は、1年生が20.7ポイント、2年生が7.4ポイント、3年生が12.5ポイント目標値を上回っている。一方、学習意識において、「勉強が好き」「授業が分かる」「家庭学習習慣」の肯定的な回答の割合が区平均を下回っていることは課題である。
- 英語:平均正答率と目標値を比較すると、1年生は10.4ポイント上回った。対話文における似ている発音の数字の違いなどに気を付けることで、さらにリスニング力を高めていく。2年生は0.5ポイント差でほぼ変わらないが、書くことや語順整序問題に課題がある。3年生は6.6ポイント上回っているため、このまま書くことを中心としてさらなる向上に努める。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝読書…毎朝10分間の読書活動に取り組んでいる。その中の言葉を記録することで、語彙力の向上を図っている。また、その言葉を使うことで言語活動の充実に生かしていく。
- 放課後補充教室…今年度より、全校生徒が25分間の補充教室に毎日取り組んでいる。Qubenaを活用し、学習、テストを実施し、つまずきのある生徒には、より丁寧な指導を行う。また異学年交流を行うことで、学習への意欲を高めていく。
- サマースクール…(7月)7月までのつまずきを解消するため、少人数指導での、補充学習を行う。1年生には、夏季勉強合宿(通所型)を実施する。(8月)夏季休業中の課題が終了していない生徒に、その課題を取り組ませることで、9月からのスムーズな登校を促す。
- 家庭学習…本校独自の家庭学習ノートを使い、その日の授業で習ったことをすぐに復習する習慣を身に付けさせる。担任が毎日点検し、指導を行う。
- ICTの活用…大型モニターやタブレット等を使うことで、わかる授業を実施する。また、生徒自身に使用させることで、主体的に学習に取り組む態度を養う。

江北桜中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	71.8	71.5	60.2	80.0	80.9	80.9	76.7	65.8	52.5	59.0	68.4	48.7
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	61.7	62.1	58.6	58.1	70.5	66.7	69.6	58.7	50.8	57.1	56.3	58.0
平均正答率(R5)	75.9	58.4	62.0	77.6	73.1	74.5	75.1	50.2	57.8	75.2	51.6	58.8
平均正答率(R4)	69.5	56.7	64.3	69.7	64.4	86.0	69.4	55.6	53.1	69.4	48.8	61.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

概ね目標値、区平均値を超えている。単元別にも特段課題は見られないが、文章読解や文法については生徒間の学力差が大きく、全体的に読解力を高める指導が必要である。

【数学】

概ね目標値、区平均値を超えている。1年生は「データの活用」、2年生は「数と式」「図形」にやや課題が見られる。3年生は全単元とも区平均値を超えたが、「1次関数」の理解をさらに深める必要がある。

【英語】

2・3年生では「書くこと」に課題が見られる。日常的な場面に応じた英文記述や、英文や対話に応じた英文記述を正確にできる力を高める必要がある。

【意識調査】

「勉強が好き」「授業が楽しい」等の肯定的回答が区平均値を下回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

○朝のベーシックタイム

読書活動を通して語彙力、読解力、想像力の向上を図る。また、学習コンテスト時期には朝学習を実施し、学校全体で基礎学力定着に向けて取り組む機会としている。

○放課後補充の時間

国語、数学、英語を中心に基礎学力の充実を図る。また、定期考査前は各教科で放課後質問教室を実施し、生徒が教室を回りながら質問できるよう支援している。

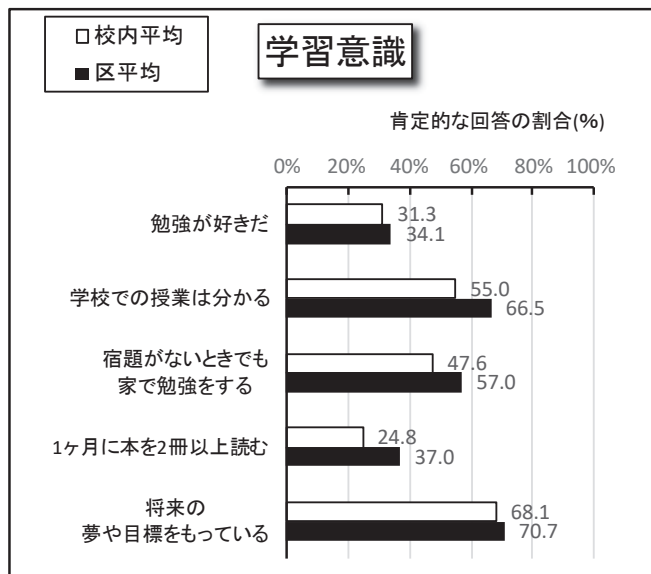
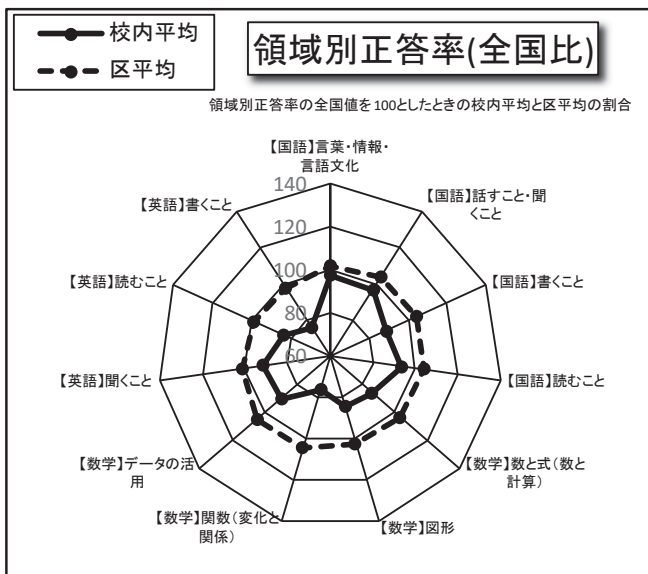
○家庭学習の充実

家庭学習ノートの取り組みを通して、学習状況を教員が毎日点検し、個に応じた学習方法の指導を行う。

○定期的な到達度チェックと補充

前年度履修事項について、夏休みに復習問題集、9月に復習テストを行い、到達度の確認をする。今年度履修事項については、2月に確認テスト、春休みに復習問題集により復習する。

鹿浜菜の花中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	57.9	51.6	43.7	62.8	72.3	66.4	67.4	46.5	34.9	44.3	36.2	29.8
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	57.1	54.6	45.5	61.2	72.9	63.9	61.8	40.1	29.4	48.1	51.1	43.6
平均正答率(R5)	69.5	46.1	52.4	70.2	64.8	68.3	71.5	38.2	50.0	67.0	33.6	45.1
平均正答率(R4)	66.1	52.7	55.4	67.4	63.8	84.2	66.0	48.5	40.6	65.0	45.6	52.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

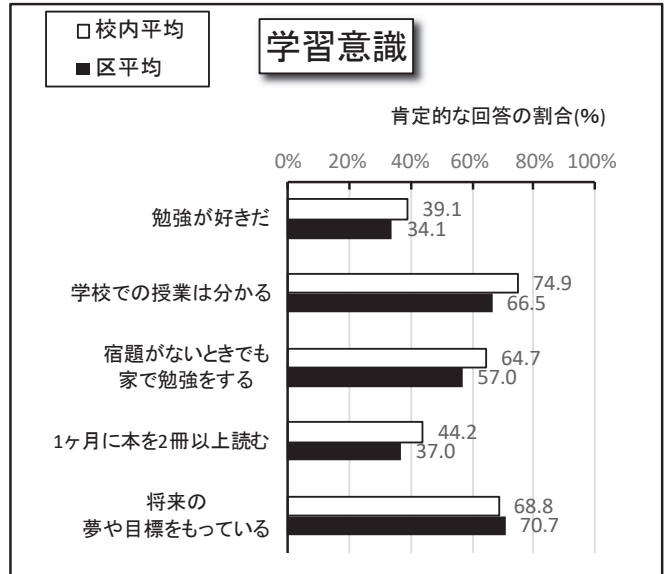
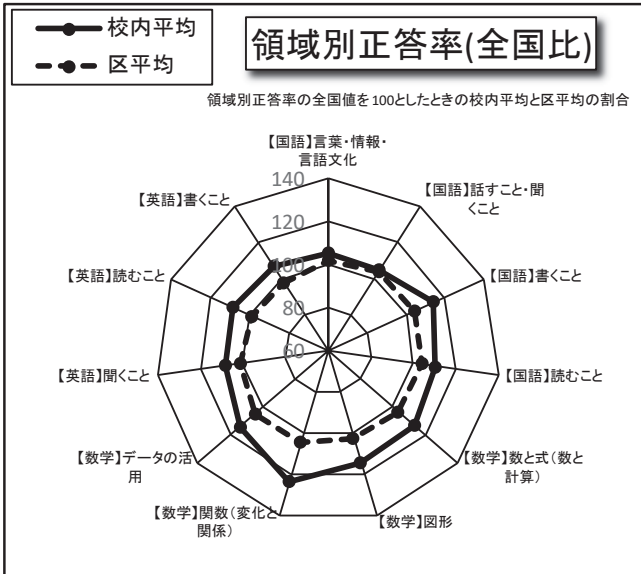
「学習定着度調査」分析結果

- 各教科の目標値に対する通過率は、1年生よりも2・3年生の方が低くなっている。
- 3年生の英語は、特に目標値との乖離が大きくなっており、2年生からの積み残しがある生徒が、3年生になっても分からないままになっている傾向がある。
- 領域別正答率では、国語・英語の「読むこと」「聞くこと」に比べ、「書くこと」については苦手な生徒が多い傾向にある。
- 平均正答率では、1年生のときは、比較的区平均に近い状態や上回っている教科があるにも関わらず、その後の学習の仕方、差が大きくなっている。
- 学習意識では、「宿題がないときでも家で勉強する」生徒は、区平均が約57%に対し、約48%と継続的な学習が行われていない生徒が多い。

学校による学力向上への主な取り組み

- 国語科では、朝読書や読み物課題に取り組み、国語の授業でフォローアップし、読書量を増やすことで、基礎学力・読解力の向上を図る。
- 数学科・英語科を重点に、夏季休業までに定着が十分でなかった学習内容を補充するため、全校体制でサマースクールを実施する。
- 英語科では、英語に対する興味をもたせるため、ペアワークやパフォーマンステストを取り入れている。
- 学校全体での取り組みとしては、漢字コンテスト、スペリングコンテスト、計算コンテストを行っている。また、各種調査や定期考査・単元テスト等の分析から、生徒と教師が目標や課題を共有し、目標達成に向けた主体的な学習の取り組みを推進する。
- 鹿浜菜の花タイム(放課後補充教室)に、朝学習まとめテストや学習コンテストで目標に達しなかった生徒を対象に、個別指導や学びあい学習、AIドリルの活用をとおして、つまづきの解消を図る。
- 朝学習・授業・放課後補充・家庭学習が連動した学習システムの構築を図る。

新田中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	79.0	76.8	75.4	82.1	89.6	82.7	88.0	74.1	74.1	68.3	67.2	69.9
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	77.7	77.2	78.1	80.1	81.3	82.5	79.3	78.7	71.3	73.5	71.0	81.5
平均正答率(R5)	78.1	62.4	69.4	77.6	77.4	77.5	79.1	57.2	69.3	77.8	51.7	64.7
平均正答率(R4)	76.1	66.0	73.4	76.0	71.4	90.0	74.3	67.8	61.2	78.2	58.0	76.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

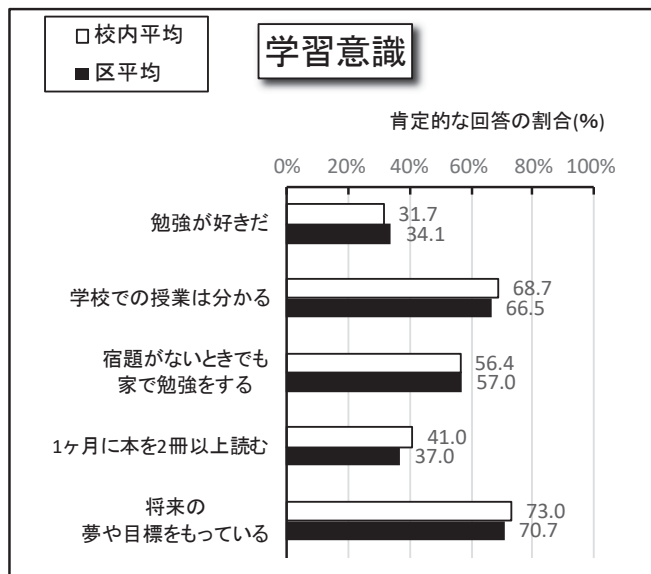
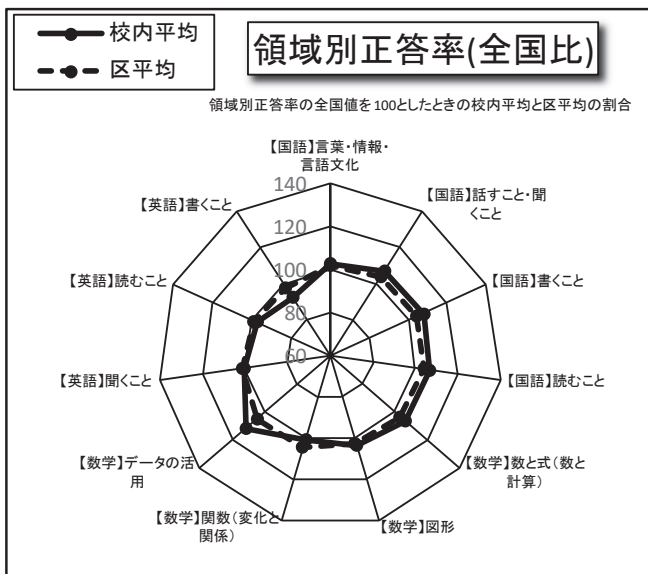
「学習定着度調査」分析結果

- 国語…全領域、区平均を上回っている。どの学年も平均的によくできたが、中でも聞き取りについては優れた結果である。また、漢字の読み書きをはじめとする知識問題は、比較的よくできている。記述式問題や応用問題では、A層とD層の差が激しく、一部の生徒が未定着と言える。
- 数学…全学年が全領域、区平均を上回っている。7年生は変化と関係、データの活用については区平均を大きく上回った。どの学年も記述問題に課題があり、正答率も二極化が見受けられる。全学年論理的な思考を育てる指導が必要である。
- 英語…全学年全領域、区平均を上回った。どの学年も毎年リスニング問題は正答率が高い。しかし、ややまとまりのある長い英文を聞いて、問いに答える問題では正答率が落ちた。メモをとりながら情報を整理してまとめるのが課題である。「書くこと」については、「音」で覚えていても「文字」として正しくアウトプットできずに誤答となったケースが見受けられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 小中一貫校の特性を活かした取り組み…5～9年生が一斉に取り組む定期考査と教科コンテストで、教科指導の一貫性を図るとともに、中学校への接続を滑らかにする。
- 放課後補充教室…週2～3回実施。教科コンテストに向けた取り組みの週は全員参加で演習に取り組む。コンテストや授業内の単元テスト後、メンバーを絞った補習学習を実施する。
- サマースクール…夏休み前までの学習の躓きを解消するため、少人数による補充学習を実施する。9年生は、基礎と発展コースに分けて都立入試対策も実施する。教材は各担当教員が作成したものや、AIドリルを活用する。
- 家庭学習…家庭学習ノートをとおして、生徒が自ら課題を設定し、粘り強く取り組める家庭学習の習慣を定着させ、主体的に取り組む態度の育成を図る。
- ICT活用能力の育成…タブレット端末、インターネットなどの情報手段を活用して、学習に対する興味・関心を高める。校外学習などの事後学習をまとめた発表を異学年交流として、プレゼン形式で発表する。

千寿青葉中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	74.1	72.9	59.7	80.2	86.3	78.6	82.4	58.0	43.7	55.7	73.2	53.6
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	68.1	70.8	58.3	72.6	76.6	66.9	72.9	66.7	46.9	54.7	66.7	58.7
平均正答率(R5)	76.7	58.4	61.7	77.7	74.6	73.6	77.9	46.4	56.7	73.8	49.2	57.8
平均正答率(R4)	72.3	61.2	64.6	74.8	67.9	85.9	70.6	58.9	51.1	70.5	52.8	59.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

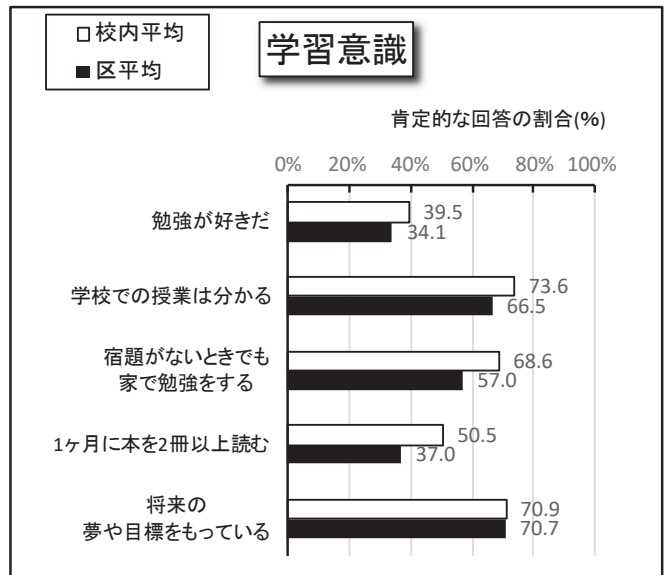
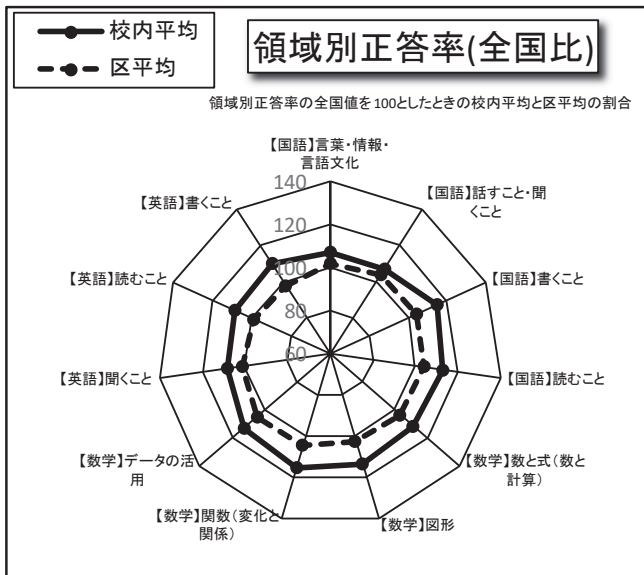
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の平均正答率は昨年度と比較して、国語で4.4ポイント上がり、数学で2.8ポイント、英語で2.9ポイント下がった。全国値と比較すると、数学と国語は上回っているものの、英語(書くこと)は下回った。
- ・学校全体の通過率は、一番高かったのが国語で74.1%、次いで数学が72.9%、英語が59.7%であった。
- ・英語は特に「書くこと」を高める必要があると思われる。
- ・学習意識に関しては、「学校での授業は分かる」が68.7ポイントなのに対して、「勉強が好きだ」という生徒は31.7ポイントとなっている。学習に対する興味・関心を高めさせる工夫や授業改善をして学ぶことの楽しさを伝えていきたい。また、「将来の夢や目標を持っている」が73.0%と高い数値になっている。3年間を見通した計画的な進路学習やゲストティーチャーを招いたキャリア教育の成果だと考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・数学はティーム・ティーチング、英語は習熟度を考慮した少人数授業を展開し、個に応じた指導を充実させる。
- ・A S T (青葉・スペシャル・タイム) の実施
朝のA S Tでは全員で読書をし、読書への興味・関心を高めると同時に、落ち着いて一日の授業を受けられる雰囲気をつくる。放課後のA S Tでは学習が定着しない生徒を中心にし、学習する機会を設ける。
- ・夏季休業中のサマースクール(補充教室)では数学と英語に特化した授業を行う。数学科と英語科が内容を検討して授業を行い、各学年教員全員が支援を行う。
- ・年間3回の学習コンクールを実施し、生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。
- ・A S Tを中心に、A Iドリルを活用した学習を行う。
- ・定期考査2週間前を家庭学習定着期間として、家庭での学習状況の確認をする。

千寿桜堤中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	82.0	78.3	75.2	84.7	91.2	81.8	86.8	68.9	61.8	74.7	76.0	82.7
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	76.7	78.2	73.8	79.0	82.6	79.6	86.6	81.5	73.2	64.1	69.9	68.0
平均正答率(R5)	79.6	60.9	70.4	79.8	77.1	76.3	80.7	50.9	63.0	78.1	54.7	74.3
平均正答率(R4)	76.6	66.3	71.1	76.6	73.2	88.7	79.0	67.7	64.5	74.1	57.1	65.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

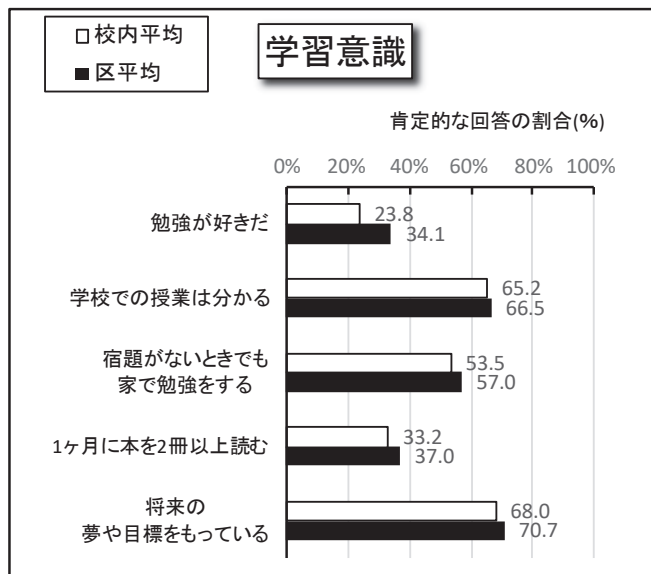
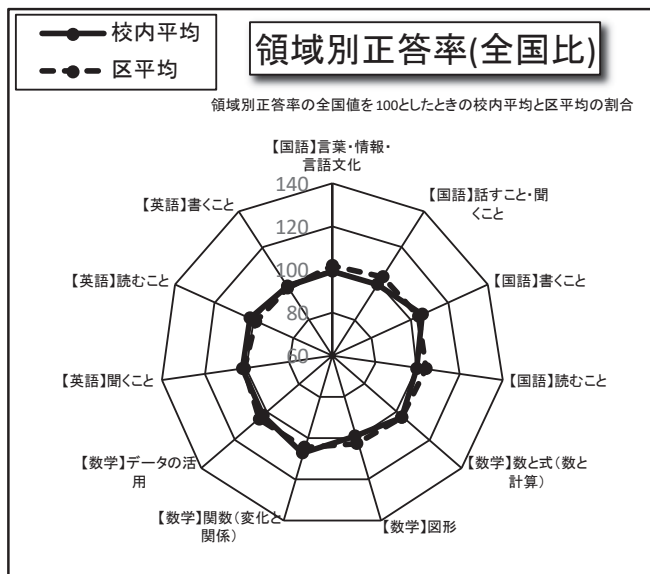
「学習定着度調査」分析結果

- グラフを見ると、どの学年もすべての教科で正答率・通過率ともに区平均・全国平均を上回っており、学習の定着に向けた取り組みの成果が表れている。学習意識において、昨年度と比べると「学校での授業はわかる」の項目は「+2.4」で授業改善の成果が見られるが、「勉強が好きだ」の項目は「-3.9」で、勉強に対して前向きに取り組むことができるようにすることが課題である。
- 国語は、「言語・情報・言語文化」「書くこと(記述)」に定着の差が見られる。語彙・文法・漢字などの知識・技能を定着させ、記述の苦手意識を解消することが課題である。
- 数学は、「思考・判断・表現」の単元においては、未定着の生徒が多い。また、単元ごとに一部未定着の生徒がいる。個々の生徒に応じて、定着を図っていくことが課題である。
- 英語は、「読むこと」「書くこと」において、昨年度から向上が見られ、授業改善の成果が見られた。ただ、単元ごとに生徒による定着率の差が大きい。個々の生徒に応じて、定着を図っていくことが課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 教科教育に限らず、カリキュラムマネジメントによって、あらゆる教育活動の中で、勉強が生きる場面を増やすことで、「勉強が好きだ」という生徒を増やしていく。
- 国語の取り組みとして、語彙・文法・漢字などの学習場面で、AIドリルを活用して基礎学力の定着を図るとともに、適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。また、「書くこと」においては、授業内で書く場面を増やし、スモールステップで課題を解決できるように授業を組み立て、苦手意識を解消する。
- 数学の取り組みとして、「思考・判断・表現」の単元については、授業において再度学習できる場面を作る。また、定着に差が見られる単元については、習熟度別少人数数学級指導やAIドリルを活用して、個々に定着を図る。
- 英語の取り組みとして、効果があったスペリングコンテスト・単元テストなどの小テスト、ALTを活用した授業などは、継続して実施していく。また、個々の生徒にはAIドリルを活用しながら、英語の基礎・基本の定着を図る。

竹の塚中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	63.8	58.5	59.3	73.0	71.1	68.4	71.0	71.0	61.3	52.1	40.8	51.0
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	62.9	62.9	61.3	66.7	75.0	80.6	66.7	62.7	49.0	54.1	51.4	59.5
平均正答率(R5)	72.9	53.3	62.5	75.6	73.1	72.6	72.8	55.5	65.3	71.0	35.4	56.1
平均正答率(R4)	70.3	57.1	62.3	71.5	69.9	90.3	68.9	54.9	50.4	71.0	47.1	61.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

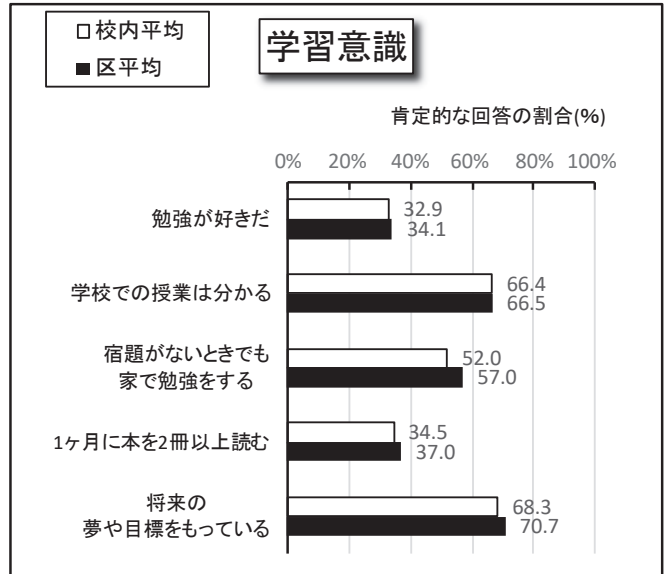
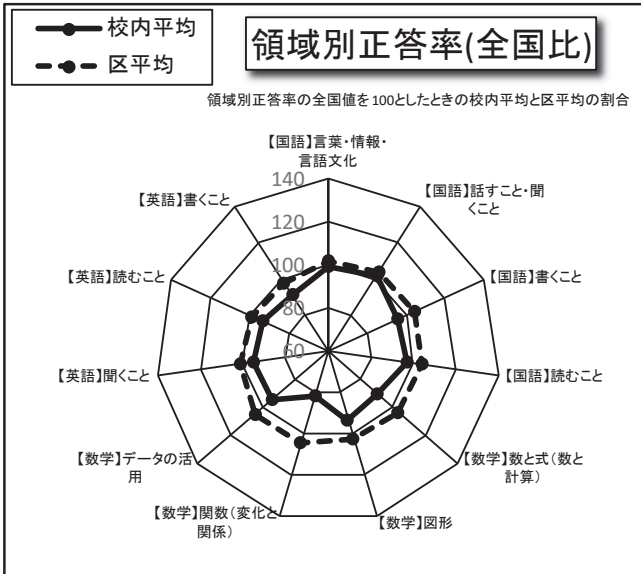
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、令和4年度に比べ国語は0.9ポイント上昇しているが、数学は4.4ポイント、英語は2.0ポイント低下した。意識調査にあるように「宿題がないときでも家で勉強をする」が、昨年度から2.7ポイント低下していることも要因の一つと考えられる。
- 国語:1、2年生の平均正答率は目標値を上回っていたが、3年生はわずかに下回っていた。読書量を増やし、漢字の読み書きの基礎学力の向上を図る。
- 数学:1、2年生の平均正答率は目標値を10ポイント以上大きく上回ったが、3年生は5.1ポイント下回った。3年生は下位層の差が大きく、個別指導を必要とする生徒が多い。A Iドリルや補充教室で対応を行う。
- 英語:全学年平均正答率は目標値を上回ることができた。領域別では、3年生で「書く」ことに課題があるため、小テストや補充教室、A Iドリルを活用する。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習【対象】全学年【教科・時期】国語、数学、英語、読書、月～金朝5分
【内容】教員が準備した小テストやA Iドリル、朝読書を実施する。
- 放課後補充教室【対象】全学年および指名された生徒【教科・時期】国語、数学、英語、月～金放課後25分【指導体制】全教員【内容】A Iドリルを活用し、区学力調査や単元テストの結果を受け、各自の苦手分野の克服および基礎学力の定着を図る。
- 学習コンテスト【対象】全学年【教科・時期】国語(5月)数学(9月)英語(12月)
【指導体制】教科を中心に全教員【内容】基礎学力の定着をめざして、国語は漢字、数学は計算、英語は単語と基本文を出題。満点賞および3つの満点者を三冠賞として表彰する。
- サマースクール【対象】希望生徒【教科】国語、数学、英語(3年生のみ理科、社会)
【時期】夏季休業中の7月【指導体制】全教員【内容】基礎クラスと標準クラスの2クラス展開する。夏季休業日までの学習内容の復習および基礎的な内容についての定着を図る。
- 家庭学習強化月間【対象】全学年【教科】国語、数学、英語、理科、社会【時期】定期考査を実施する月、年4回【指導体制】教科を中心に全教員【内容】家庭学習ノートやA Iドリル、各自の目標、取り組んだ時間、自己評価を記入させ、主体的に学びに向かう力を養う。

西新井中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	64.7	56.4	55.0	67.0	72.9	71.4	72.0	47.1	38.6	52.6	46.1	53.3
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	66.5	62.7	60.8	66.3	76.0	69.4	71.4	56.5	50.3	62.6	53.3	59.9
平均正答率(R5)	72.3	50.5	59.3	72.2	67.3	71.3	74.5	41.3	53.5	69.7	37.3	56.2
平均正答率(R4)	71.7	57.0	65.1	71.7	68.4	87.1	71.5	54.6	53.1	72.0	46.2	59.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【英語】平均正答率は、足立区の値を1年生で2.4ポイント、2年生で6.6ポイント、3年生で3.9ポイント下回った。領域別では、英文の主旨を読み取る力や、読解力がついていないので、英文を読むトレーニングを行う必要がある。

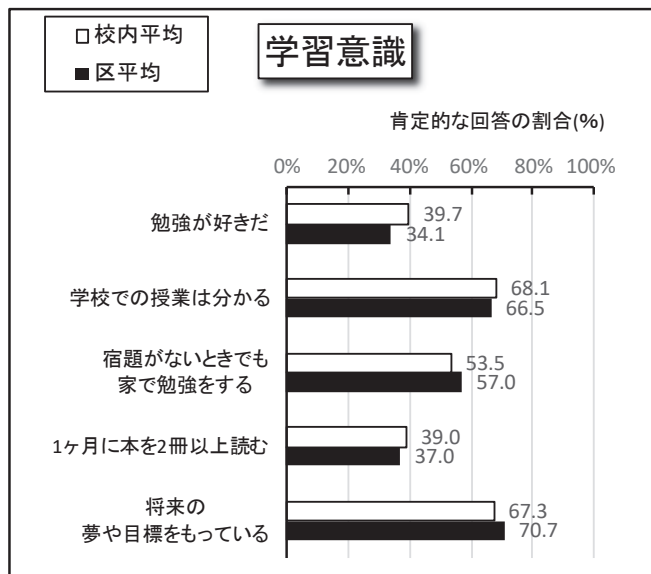
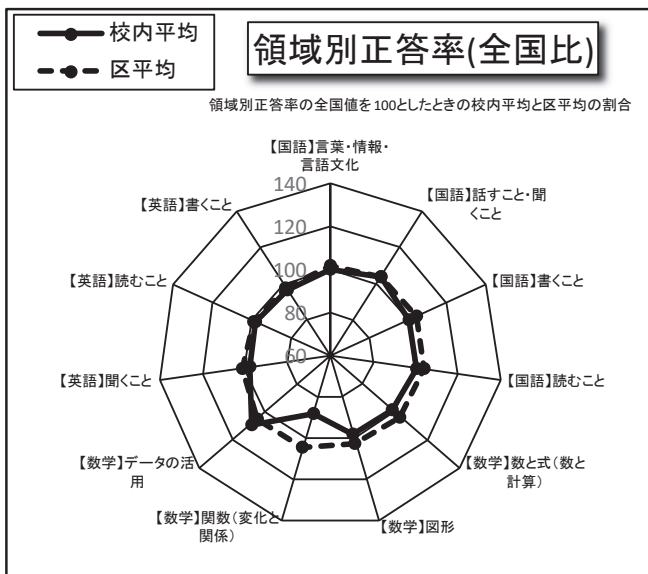
【数学】平均正答率は、足立区の値を1年生で3.3ポイント、2年生で8.4ポイント、3年生で8.8ポイント下回った。領域別では、特に計算分野での領域において課題がある。関数の領域は、特に計算分野での既習事項を土台としているため、基礎的・基本的な計算について重点的、継続的な取り組みが必要であると考えられる。

【国語】平均正答率は、足立区の値を1年生で2.7ポイント、2年生で1.7ポイント、3年生で4.3ポイント下回った。領域別では、特に書くことの領域において課題がある。自らの意見や考えを文章にするためには、日頃の授業から、考えを文章に表す活動や、まとまった文章を書く活動に取り組む必要があると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学習や放課後の補習授業など、西新井中学校の学力向上の取り組みをしっかりと実施していく。その際個別最適な課題に取り組むために、プリント学習やAIドリルを有効に活用できるようにしていく。サマースクールにおいては、成績が下位の生徒を対象に学習に取り組ませるとともに、1年生の数学においては、学年の枠を超えて、全教員が数学の基礎の部分の指導にあたり、いわゆる中1ギャップの発生を少しでも減少できるよう努める。また、夏休みを利用して3教科を中心に、足立区の学力調査を分析する教科会議を行い、学力向上のための今後の取り組みについても検討していく。9月より、そこで話し合われた修正部分などを取り入れた朝学習の取り組みや補習授業などを実施し、年度内に定着度の低い箇所の補習を行い定着を図る。
- ・2、3年の数学に関しては、足立区の平均と比較して8ポイント以上のマイナスとなっているため、根本的に取り組みを見直し、対策をとっていかねばならない。1年生のときから基礎基本の定着を確認しつつ進めていき、学年が上がった際に既習事項の抜け落ちがないようにする。

花畑中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	65.3	65.3	62.0	65.6	69.8	70.8	77.3	68.2	61.4	53.3	57.8	53.3
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	68.0	64.1	60.2	70.7	79.3	68.5	71.3	58.6	47.1	61.0	51.9	64.9
平均正答率(R5)	73.5	53.1	61.7	71.6	66.0	70.4	76.2	49.7	60.6	73.0	41.6	57.0
平均正答率(R4)	72.7	58.1	63.7	72.7	67.7	85.8	72.1	58.0	50.2	73.5	46.3	62.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】平均正答率は2年生のみ上昇し、通過率については伸び悩んでいる学年も見られる。領域で見ると、「話すこと・聞くこと」が比較的高い傾向にある。これは授業のなかで、積極的に話し合い活動を取り入れている結果だと考えられる。一方で「書くこと」には課題が見られるので、様々な種類の文章を書くことに慣れさせていく必要がある。

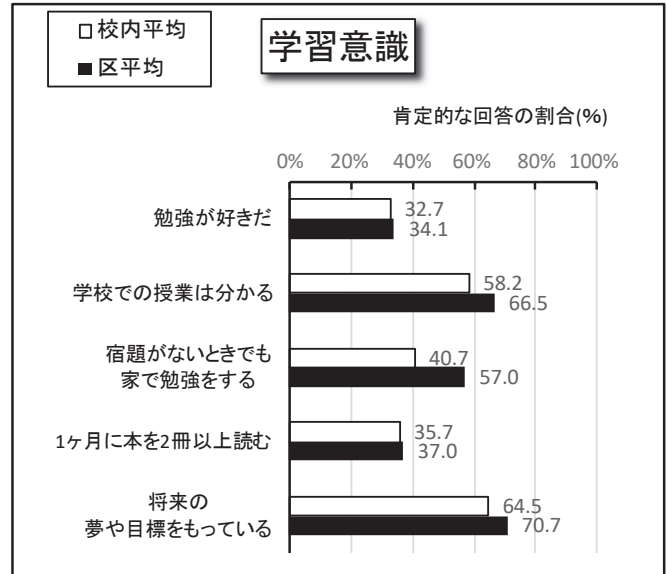
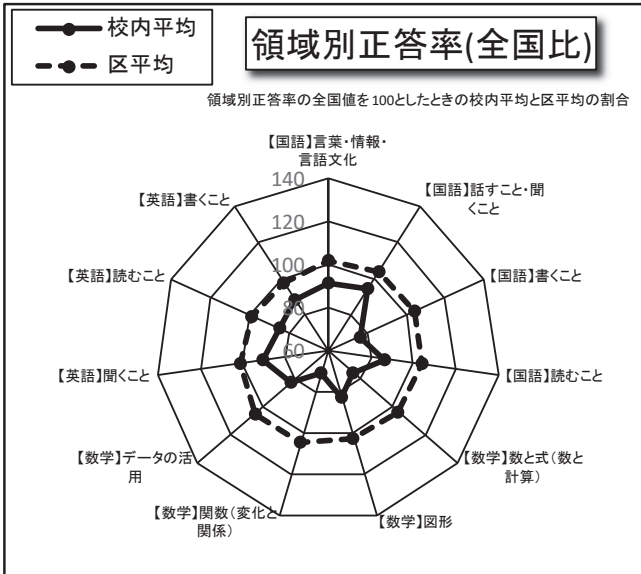
【数学】2年生は基礎の正答率が比較的高いが、応用に課題がある。3年生は基礎・応用ともに課題がある。観点では、「知識・技能」に比べ、「思考・判断・表現」が低い傾向にある。今後は、授業のなかで一人ひとりが深く思考する時間を確保し、発展的な力を高めていく。1年生については、基礎の力を定着させるため、習熟度に合った学習を進める。

【英語】1・2年生は「読むこと」と「書くこと」がわずかではあるが、区平均を上回っている。3年生については今後、条件に合わせて英文を書いたり、まとまりのある英文を読み内容を理解したりするなどの課題に多く取り組ませる必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- すべての授業において「聞く力、まとめる力、伝える力」の育成をめざし、個々の生徒の習熟の程度を検証し、個に応じた指導を継続することを通して学力の定着を図る。
- 数学で習熟度別少人数指導、英語で少人数指導を展開し、学力の定着を図る。デジタル教科書、ICT機器等を効果的に活用することで、わかる授業、生徒が主体的に取り組むことができる授業を実施する。
- 小学校と連携し、家庭学習の質を向上させ、家庭学習ノートを毎日提出させる。
- 基礎学力の定着に課題のある生徒に対して、放課後20分の補習学習(がんばるクラブ)を実施する。ここでは、AIドリルを活用し、5教科の基礎学力の定着を図る。
- 定期考査1週間前に、全校生徒に対して放課後学習を実施し、学習時間の確保とともに、学習習慣の確立を図る。
- 花畑第一小、花畑西小との連携を通して、9年間を見通した指導計画や指導方法を策定し、小学校、中学校の段階に応じて身につけるべき内容を明確にし、基礎学力の定着を徹底する。

花畑北中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	52.5	44.6	48.5	58.3	66.7	72.2	66.7	36.1	33.3	27.6	27.6	37.9
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	47.9	52.6	53.1	54.3	58.8	45.7	43.3	41.9	29.0	45.2	56.7	86.7
平均正答率(R5)	65.5	43.6	53.4	67.9	60.9	70.5	67.1	34.9	48.7	60.6	30.8	45.9
平均正答率(R4)	65.2	51.8	62.6	65.6	59.2	79.2	62.7	45.3	40.0	67.2	50.0	73.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】領域別正答率では「書くこと」「読むこと」について特に課題が見られる。朝読書の時間確保に加え、図書館の利用をさらに活性化することにより、生徒の読む力・理解力・想像力を向上させたい。授業で、表現活動を増やした成果が2年生で表れ始めた。

【数学】同一集団の経年比較でみると、2・3年生の平均正答率・通過率ともに低下した。領域別正答率では、関数(変化と関係)の正答率が区平均を大きく下回った。毎時間、前回の授業内容の復習や、基礎基本の問題の確認を行っているが成果として現れていない。応用的な問題や、数字や文字の置き換えへの理解が難しい。

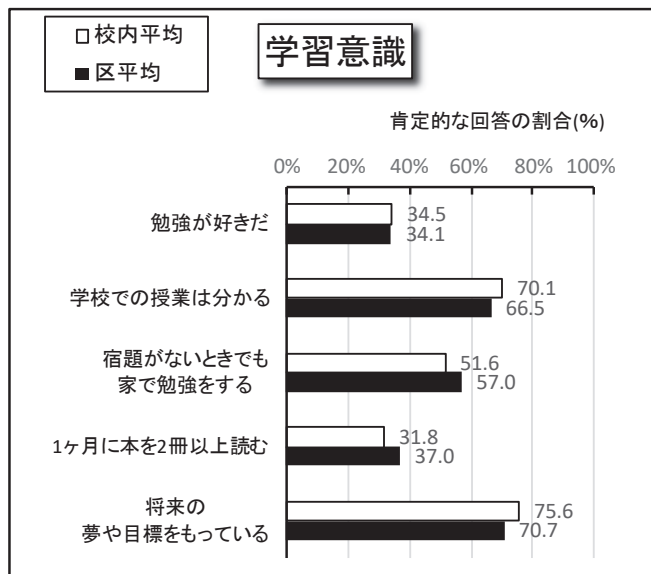
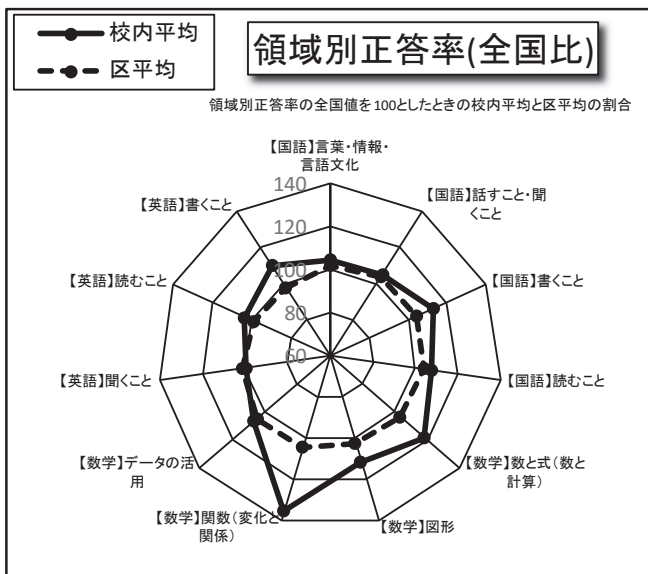
【英語】いずれの領域も区平均を下回っている。生徒は英語での会話や質問には意欲的に参加しており、ヒントや手掛かりがあると理解できることも多くあるが、個人で問題を読み解く力が足りていない。小テストや例文問題を繰り返し行い、力をつけていく必要がある。

どの教科も宿題がないと自宅で学習する習慣があまりないため、家庭学習でA Iドリルを活用することで、基礎基本の定着を徹底的に行っていく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・ 授業を受ける決まりを徹底し、落ち着いた授業を実施する。
- ・ 授業のねらいを明確にし、発問や授業形態を工夫する。言語活動や話し合い活動を充実させ、生徒が主体的に学習に取り組む授業を実践する。
- ・ I C T機器及びGoogleアプリケーションやA Iドリルなどを効果的、効率的に活用した授業について情報共有や授業実践を行い、授業改善を図る。
- ・ A Iドリルを活用した家庭学習を推進するとともに、A Iドリルを活用した放課後補充教室を教科担当中心に全校体制で行う。定期考査前は質問教室を行う。
- ・ 夏休み中の7月末までサマースクールを実施する。1年生は数学特訓を行い、基礎的・基本的な力を定着させる。
- ・ STEP UP検定として、漢字、英単語についてのテストに向けた取り組みを実施し、学習意欲の向上を図る。
- ・ 本に親しむ取り組みを学校司書、図書担当教員と連携し推奨していく。

花保中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	75.4	77.3	68.8	86.4	78.4	80.7	81.4	79.4	66.0	53.5	73.2	57.7
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	72.9	82.9	64.6	79.8	84.0	79.8	74.7	81.3	48.0	62.0	83.1	62.0
平均正答率(R5)	77.4	63.6	66.4	79.5	73.6	76.7	78.9	60.7	65.0	72.9	54.2	60.3
平均正答率(R4)	73.0	69.0	65.7	75.9	72.5	88.8	71.1	69.0	51.2	71.3	64.2	61.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

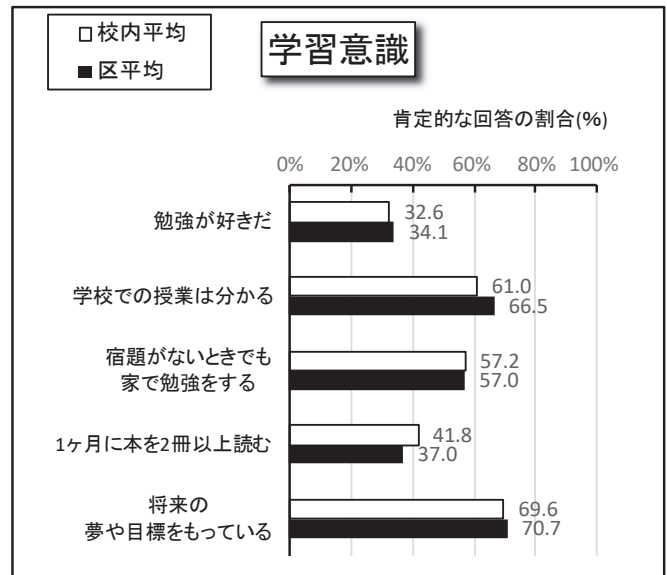
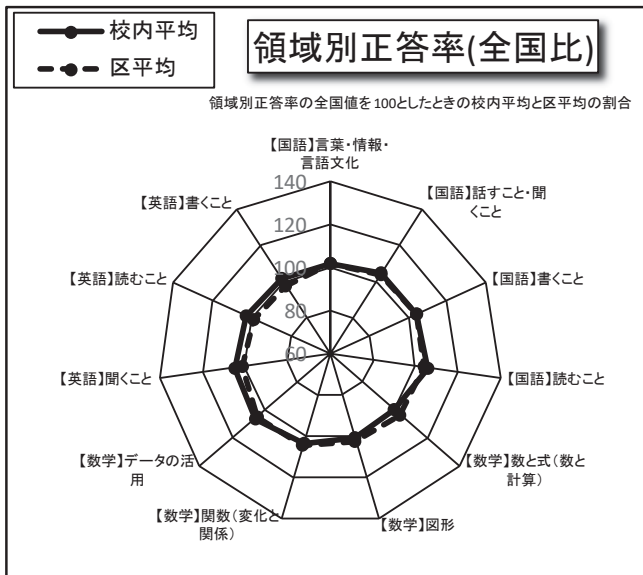
「学習定着度調査」分析結果

- ・1年生の通過率を昨年度の1年生と比べると、国語は+6.6ポイント、数学は-5.6ポイント、英語は+0.9ポイントである。
- ・2年生の通過率を1年生の時と経年比較すると、国語+1.6ポイント、数学-4.6ポイント、英語は-13.8ポイントである。区平均と比較すると、数学は+14.5ポイント、英語は+11.0ポイントで区平均を大きく上回っていることから、数学、英語の減少幅そのままの差はないと思われる。
- ・3年生の通過率を2年生のときと経年比較すると、国語-21.2ポイント、数学-8.1ポイント、英語+9.7ポイントである。国語の減少幅が大きい、区平均と比べると-5.8ポイントであり、減少幅そのままの差はないと思われる。英語は昨年度のポイントが大幅減少であったことを考えると回復傾向にあり、成果が出た結果となった。
- ・意識調査の「将来の夢や希望を持っている」の肯定的回答数値が昨年度より6.6ポイント上昇し、区平均より+4.9ポイントのアップとなった(昨年度は区平均より、-4.9ポイント)。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・毎日、朝学習を実施する。国数英の3教科で実施し(1教科2週間が1クール)、終了後は「朝学習まとめテスト」を行い全員が合格点を取るまで追試を行う。また、読解力向上をめざし、NIE(教育に新聞を)を国数英の3教科と同様の期間、方法で行っている。
- ・国数英の3教科で放課後補充教室を実施し、朝学習まとめテストの不合格者を中心に基礎的事項を補習している。また、定期考査前には定期考査に向けた補習教室や質問教室を行う。
- ・聞く力及び作文力向上として全校朝礼で校長講話を聞き、それについての感想や質問等を原稿用紙1枚程度で書き、提出する。提出された感想には校長が全て目を通し返却する。
- ・主体的学習の向上として朝学習や授業でA Iドリルやデジタル教科書を使用し、家庭における自主学習の手立ての一つとしている。また、家庭学習の習慣化の促成として自主学習ノートの提出を毎日課している。いずれも生徒が自分で自分に必要な教科や分野を考え、学習を進める形態である。

東綾瀬中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	72.6	65.3	68.8	73.9	81.2	82.4	79.4	54.9	60.6	64.9	57.6	61.8
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	70.1	67.6	63.5	73.5	74.1	68.7	72.3	61.9	52.9	65.3	67.1	68.9
平均正答率(R5)	75.2	55.5	66.0	74.7	71.0	76.5	76.1	46.3	62.1	75.0	45.7	62.4
平均正答率(R4)	72.6	58.8	66.4	72.8	67.2	85.9	71.4	58.0	53.8	73.4	51.8	67.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】平均正答率が前年度より上がっており、漢字や言葉の基礎的な学習を反復して行ったことや、話し合い活動の機会を増やしたことが要因ではないかと考える。他者の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになってきている。また、全学年朝の読書活動を実施しており、普段から活字に触れることができている。さらに生徒が主体的に学習に取り組めるよう環境を整えていく。

【数学】目標値に対する通過率は、令和5年度、1年生は81.2%であるが、2年生、3年生の通過率は、昨年度(前学年時)と比べるとそれぞれ19.2ポイント、4.3ポイント低下している。特に2年生は1年時と比べて目標値に届かない生徒が2割近く増加した。AIドリルの基礎問題や計算を繰り返し継続的に取り組みせ、基礎学力の定着を図る。さらに家庭へご協力をいただき、家庭学習の習慣化が定着していくよう取り組んでいく。

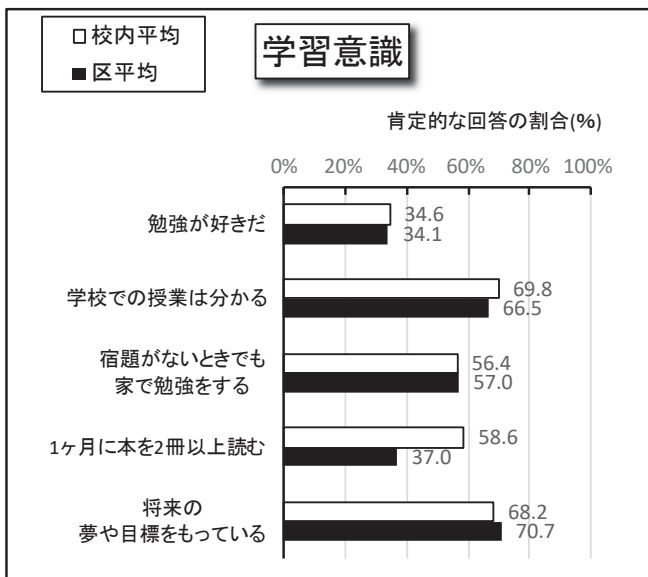
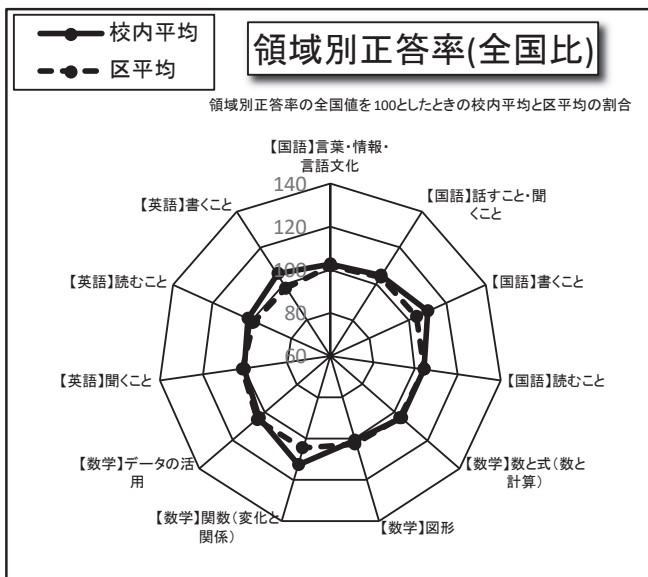
【英語】令和5年度、1年生の通過率が82.4%と基礎・基本的な学力が定着している。また、3年生は、通過率が2年時に比べ8.9ポイント上昇した。今年度、全学年通過率が6割を超えており、日頃の授業改善に成果が出てきている。さらに毎時間の宿題提出、定期的なパフォーマンステストの実施、英語でのコミュニケーションを意識した授業を全教員の共通理解のもとで展開した結果だと考える。

【学習意識】「学校での授業は分かる」の項目が区平均より5.5ポイント低い。早急に授業改善等、対策を講じる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 1 生徒に「なぜ」を考えさせる問いを意識した授業の実施
- 2 小中連携による授業研究
- 3 管理職・教科指導専門員による授業観察
- 4 AIドリルタイム(週4日×15分)と授業内でのAIドリルの活用
- 5 夏季休業中の補充教室の実施(1年生は小学校教員と連携)
- 6 本校の生徒が連携小学校の児童に勉強を教えに行く、「東中ティーチャー」を実施

東島根中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	70.6	65.8	69.4	71.0	75.2	77.2	78.8	71.8	68.2	62.8	50.5	62.1
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	63.3	59.3	56.0	69.3	63.6	62.5	70.8	61.5	50.0	52.6	54.3	56.0
平均正答率(R5)	75.9	56.3	66.0	74.7	71.4	73.5	77.2	52.1	64.8	75.9	42.7	62.1
平均正答率(R4)	69.5	54.8	61.1	72.4	60.6	85.3	70.2	58.3	52.0	66.8	47.3	57.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

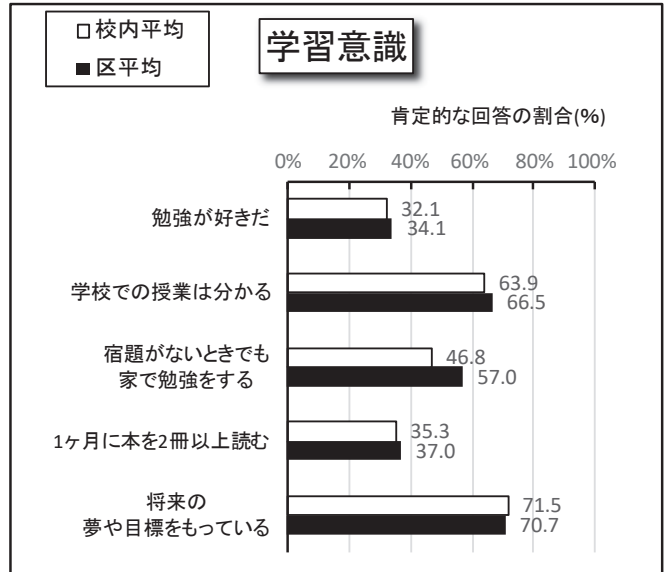
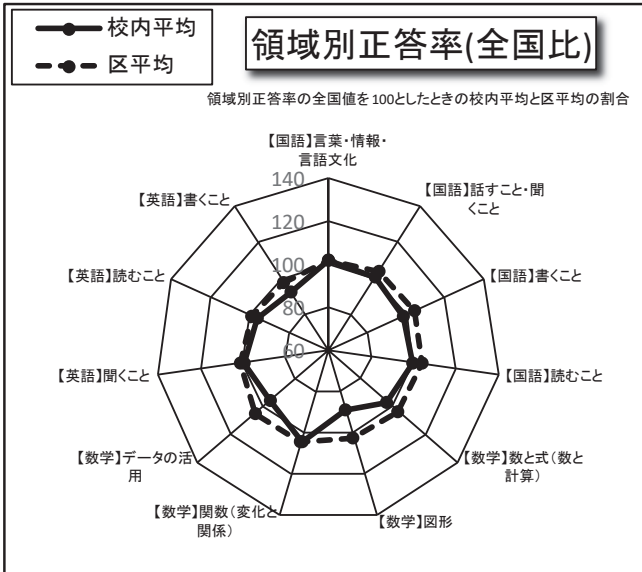
「学習定着度調査」分析結果

- ◆令和5年度の通過率は令和4年度の結果と比べ、学校全体では国語で+7.3ポイント、数学で+6.5ポイント、英語で+13.4ポイント上回った。また平均正答率は国語で+6.4ポイント、数学で+1.5、英語で+4.9ポイント上回った。
- ◆1年生の通過率については、令和5年度は国語、数学、英語の3教科それぞれで、令和4年度の結果をすべて上回った。平均正答率では国語で+2.3ポイント、数学で+10.8ポイント令和4年度を上回り、英語で-11.8ポイント下回った。
- ◆2年生の通過率については、令和5年度は国語、数学、英語の3教科それぞれで、令和4年度の結果をすべて上回った。平均正答率では、国語、英語で令和4年度を+7.0ポイント、+12.8ポイント上回り、数学で-6.2ポイント下回った。
- ◆3年生の通過率については、令和5年度は国語、英語は令和4年度を上回ったが、数学では-3.8ポイント下回った。平均正答率では、国語、英語で令和4年度を+9.1ポイント、+4.9ポイント上回り、数学で-4.6ポイント下回った。
- ◆今回の分析結果から、全学年に渡り通過率と平均正答率は概ね上昇傾向にある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ◆家庭学習の取り組みとして、授業の振り返りを行うために、毎日2ページずつ家庭学習ノートを活用し、できなかった内容の克服や重要ポイントの復習を図る。
- ◆朝補習として、木曜日以外の毎朝、20分間の学力補充教室を全学年で実施する。対象生徒を15人前後に絞り、プリント学習を中心とした授業の復習や演習を行う。
- ◆長期休業中の課題として、A Iドリルを有効活用する。また、長期休業中の学力補充教室への参加を呼びかけ、国語、数学、英語の3教科を中心に、プリントによる課題やA Iドリルを活用した補習を実施して、基礎学力の向上を図る。

澁江中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	63.1	59.4	59.9	68.8	71.1	72.5	74.2	56.7	55.0	50.0	51.2	52.5
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	60.8	57.6	49.7	68.3	71.5	61.8	68.8	60.0	38.2	47.7	45.4	52.3
平均正答率(R5)	73.1	51.6	60.9	73.0	67.0	71.6	75.9	44.6	58.1	71.1	42.0	57.1
平均正答率(R4)	68.6	54.5	58.6	70.7	65.1	84.9	69.2	57.4	47.1	66.5	43.8	58.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体における通過率を昨年度と比較すると、国語+2.3、数学+1.8、英語+10.2と昨年度を上回る結果となった。本校では「B層、C層の学力向上およびD層の学習習慣の定着」をめざした補充教室を実施しているが、通過率が上昇したことは成果として表れたと評価する。教科別には以下のように分析をする。

【国語】平均正答率を区平均と比較すると、教科総合で-1.7(基礎-1.4、応用-3.2)で区平均を下回っている。特に3年生の応用は-7.1という結果から課題が残った。校内学力4層比較では三年間でA層が+4.6と上昇したが、D層も+2.7となり2極化傾向にある。

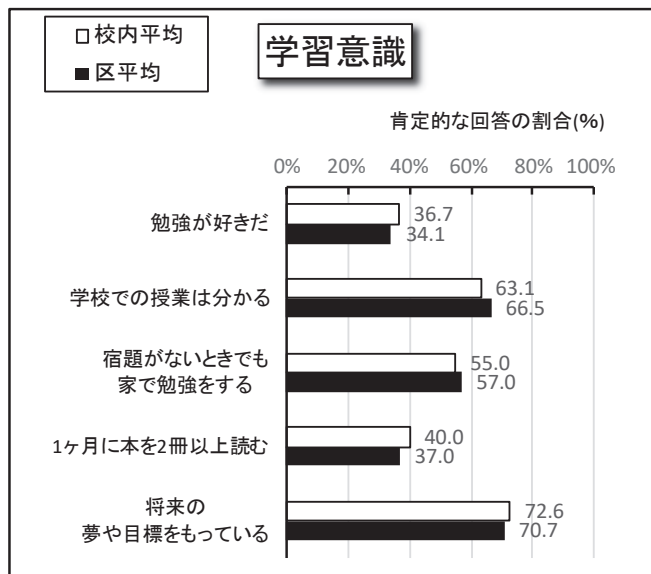
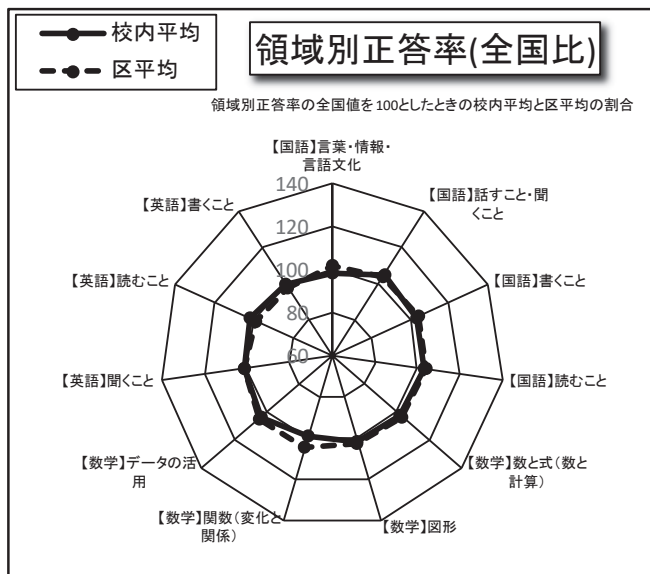
【数学】平均正答率を区平均と比較すると、教科総合で-4.2(基礎-4.2、応用-4.6)で区平均を下回っている。校内学力4層比較ではD層が+10と増加傾向にあることから、基礎学力の定着が不十分である生徒が増加していることがわかり、課題が残った。

【英語】平均正答率を区平均と比較すると教科総合で-2.3(基礎-2.1、応用-2.9)で区平均を下回っている。通過率を同一集団の経年比較で見た場合、現3年生では+14.3と大幅に改善した。

学校による学力向上への主な取り組み

- サマースクールを10日実施する。D層生徒の学習習慣の定着をめざした指名制講座を3教科で開設する。A層・B層・C層の学力向上をめざした希望制講座を5教科で開設する。
- A Iドリルキュビナを活用した放課後補充教室を5教科で実施する。
- 白鷺学習教室で小テストやA Iドリルの正答率が低迷している生徒に学習の支援をする。
- I C T機器を積極的に取り入れ、視覚的にわかりやすく、興味をもつ授業を展開する。
- 読解力向上をめざし、毎朝10分間、全校生徒に朝読書を取り組ませる。
- 家庭学習の習慣化を図るために家庭学習ノートを毎日2ページ取り組ませ、提出させる。
- 近隣2校澁江小と澁江第一小と連携し、教科別分科会を実施し、各校で1回ずつ指導案検討、研究授業、研究協議を行う。全ての研究授業において講師から指導助言を受ける。
- 校内で年2回指導案を全教員に配布し、公開授業を行う。
- 年3回生徒に授業診断アンケートを実施する。

谷中中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	64.5	67.7	67.0	72.3	78.7	79.9	69.3	62.1	61.4	52.3	61.7	59.1
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	67.1	64.6	63.4	67.1	74.7	76.0	71.2	63.0	54.1	62.9	55.7	60.0
平均正答率(R5)	73.7	55.4	64.8	75.2	70.4	74.3	74.0	47.7	64.0	72.0	45.9	59.5
平均正答率(R4)	71.3	57.2	64.8	71.8	66.1	88.9	70.6	57.7	54.6	71.6	47.0	59.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

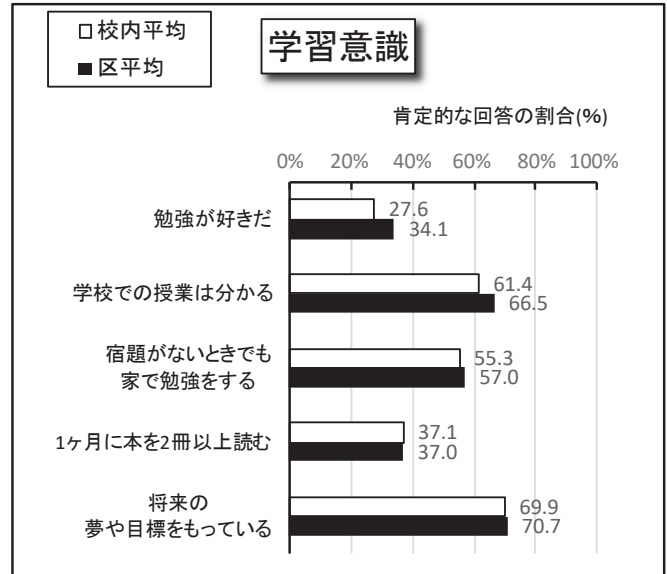
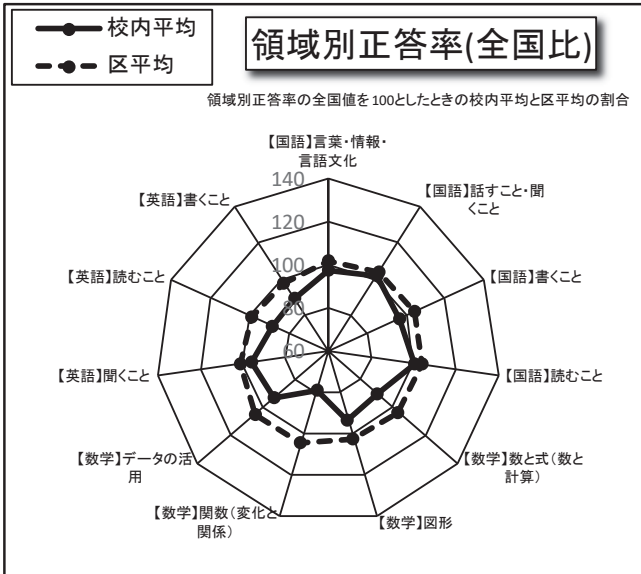
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の通過率は、R4年度に比べて数学は3.1ポイント、英語は3.6ポイント上昇しているが、国語は2.6ポイント低下している。
- ・2年生の通過率はR4年度に比べて、経年変化で見ると国語が2.2ポイント上昇しているが、数学、英語に関しては、それぞれ12.6ポイント、14.6ポイント低下している。また、3年生の通過率はR4年度に比べて、経年変化で見ると国語、数学に関しては、それぞれ18.9ポイント、数学が1.3ポイント低下しているが、英語が5.0ポイント上昇している。2年生は、中学校1年生の数学・英語の学習内容が十分に定着していないと思われる。3年生は基礎的な力の定着が見られるが、特に国語は書かれていることを正確に読み取る活動や、目的や意図を明確にもって書く場面を意図的に設定するなど、指導の工夫が必要だと思われる。
- ・学習意識の調査において、「勉強が好きだ」「1ヶ月に本を2冊以上読む」「将来の夢や目標を持っている」の3項目において、肯定的な回答をした割合が区平均をそれぞれ2.6ポイント、3.0ポイント、1.9ポイント上回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・国語、数学、英語の学習コンテストを各教科年2回実施する。そのために、コンテスト前は3教科科中心の朝学習を実施したり、家庭学習としてコンテストの内容を範囲として提示したりするなど、学習内容の復習・確認を行っている。また、毎週金曜日に全校体制でA Iドリルに取り組みさせることで基礎学力の定着を図っている。
- ・放課後補充教室(YST)において、区調査の目標値や各種コンテストの合格ライン未到達の生徒に対して、学年体制で指導を行っている。指導に際しては、A Iドリルや各教科のプリントを用いて効果的な学習ができるように工夫をしている。
- ・自習教室を設置し、自学自習の場を設定することで学習環境を調べ、主体的に学習に取り組む態度を育成している。
- ・家庭学習の習慣化を図るために、家庭学習ノートを活用し、家庭学習状況を学年体制で毎日点検し、確認している。

六月中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	64.3	58.6	52.5	59.8	61.4	64.6	72.7	68.2	46.4	59.0	45.3	48.2
目標値(R4)				65.7	58.7	81.0	61.2	52.0	51.3	68.7	46.1	53.0
通過率(R4)	63.5	58.9	55.0	65.8	68.9	68.9	68.1	50.7	46.4	56.7	55.6	48.0
平均正答率(R5)	72.2	48.1	58.3	68.3	59.5	67.7	74.4	48.1	56.5	73.2	37.0	54.9
平均正答率(R4)	69.5	55.1	60.8	70.8	63.9	86.3	69.3	51.8	50.0	68.3	48.3	53.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○領域別正答率では、すべて区平均を下回っている。

特に、【数:関数(変化と関係)】が大きく下回っている。放課後補充教室の時間やA Iドリル等を活用した家庭学習により学習時間の確保を図る必要がある。一方で【国:読むこと】は区平均と同程度である。今年度から朝読書を行っており、今後は読む力が伸びると予想する。

○学習意識では、5項目中4項目が区平均を下回っている。

「勉強が好きだ」は前年度の校内平均より5.4ポイント下回った。学習に対して、興味・関心や達成感を実感するような取り組みが必要である。「1ヶ月に本を2冊以上読む」は前年度の校内平均を6.6ポイント上回っている。これは昨年度からの読書時間を多くする取り組みの効果ではないか。朝読書で、より本に親しむ機会が増えおり今後さらに伸びることが予想される。

○通過率が50%を下回っているのが、2年生英語、3年生数学と英語である。

放課後補充教室の時間を活用して、個々のつまづきに対応する必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

【放課後補充教室の実践】A Iドリル「Qubena」の問題だけでなく、ワークブック機能を活用して各教科で課題を設定し、取り組んでいる。定期考査前は質問教室を行い、意欲的に学習に取り組んでいる。

【学習委員会の活動】学習委員会の活動として、学習を促す掲示物の作成や英検、数検、漢検の受験を推進する。定期考査前の予想問題作成で、考査に向けての対策学習を促している。

【土曜補充教室(ドテラ)】学習支援ボランティアによる、学習教室を年間で行っている。定期考査前はテスト範囲に合わせた教材を用意される。生徒の学習場所を提供する機会にもなっており、考査前には意欲的に学習する生徒が多数参加している。

【家庭学習の充実】放課後補充教室と連動し、家庭学習ノートや「Qubena」を活用して家庭学習の充実を図っている。

【授業改善プラン】調査結果を分析し、授業改善プランを作成する。足立スタンダードに沿って、生徒が学習することが楽しいと実感でき、自ら学習できるようになる授業を展開する。